



わたしの青少年赤十字

一〇〇文字のつづき

詩・一〇〇文字提案 十周年記念作品集

◇はじめに

「詩・一〇〇文字提案作品募集」事業が始まって、二〇一五年度で十周年を迎えました。

事業開始当時は、県内の児童生徒の青少年赤十字に対する意識を高め、活動の活性化を図ることが目的でしたが、二〇一一年の東日本大震災・原発事故発生以降は、震災に関わる内容の作品がかなり多く寄せられるようになってきました。本来の目的を踏襲しつつも、心が疲弊している児童生徒が、自らの思いを「書く」活動を通して、これからの生活を前向きに考え、夢や希望をふくらませるとともに、「人道」精神のもと、青少年赤十字活動を積極的に推進してほしいという願いも加味されてきています。

当作品集に掲載された優秀作品をお読みいただくことによって、作品の内容の変遷及び児童生徒の姿や心の変化等から、当事業の成果について再認識していただきたいと思います。さらには、広く発信することによって、福島県の子どもたちの現状理解の一助としていただき、今後の当事業の在り方と児童生徒支援についてご指導を賜れば幸いです。

目次

わたしの青少年赤十字

標語・一〇〇〇文字提案作品

◆標語

二〇〇六年度「健康・安全」	7
二〇〇七年度「いのちと健康」	8

◆詩

二〇〇八年度「いのちの詩」	13
二〇〇九年度「いのちの詩」「愛の詩」	15
二〇一〇年度「」	17
二〇一一年度「」	23
二〇一二年度「」	30
二〇一三年度「いのちの詩・愛の詩」	36
二〇一四年度「」	43
二〇一五年度「」	47

◆私の一〇〇〇文字提案

二〇〇六年度「わたしの学校自慢」	53
「私のやってみたいボランティア」	55
「世界の見知らぬ友へ」	58

二〇〇七年度「私のボランティア」	59
「わたしと家族」	63
「わたしの行きたい国」	66
二〇〇八年度「ボランティアしよう」	69
「友だち作ろう」	74
「地球温暖化を救う」	77
「わたしのアイディア」	80
二〇〇九年度「わたしの挑戦」	83
「わたしのふるさと自慢」	85
二〇一〇年度「わたしの挑戦」	87
「わたしのやってみたいボランティア」	94
「〇〇さんのすばらしいところ」	97
「私の気づき」	99
二〇一一年度「あたたかい言葉のプレゼント」	100
「わたしのチョボラ」	104
「〇〇さんのすばらしいところ」	107
「私の気づき」	112

二〇一二年度「あたたかい言葉のプレゼント」……113

「わたしのボランティア」……117

「〇〇さんのすばらしいところ」……121

二〇一三年度「あたたかい言葉のプレゼント」……127

「わたしの夢・福島のみらい」……132

「お友だちのすばらしいところ」……144

「東日本大震災でわたしが『気づき』

『考え』『実行したこと、しようと

考えていること』(高校生のみ)……152

二〇一四年度「あたたかい言葉のプレゼント」……154

「わたしの夢・福島のみらい」……157

「お友だちのすばらしいところ」……163

「東日本大震災で、わたしが『気づき』

『考え』『実行したこと』、『実行しよ

うと考えていること』(高校生のみ)

……165

二〇一五年度「わたしのできるボランティア」……166

「福島・日本・世界のためにわたしが

したいこと、できること」……169

「わたしが感動した

「ことばやできごと」……173

〈題 字〉

福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長

藤田 伸朔氏

標語

泉崎村立泉崎第二小学校 一年 ふかざわ ゆうや

人間の命はたった一つだけ、

リセットなんかできないよ！

檜枝岐村立檜枝岐小学校 二年 平野 芽生

いのちはね 一つしかないたからもの

福島市立蓬萊中学校 三年 佐藤 史弥

安全は 目から耳から 心から

福島県立川俣高等学校 一年 神野 晃

スポーツをすると体がたくましくなる

勉強をすると頭がたくましくなる

人と話すと心がたくましくなる

すべて合わさって「健康」ができるんだよ

下郷町立旭田小学校 五年 佐藤 彩奈

そのいじめ

なければみんな 笑顔だよ

天栄村立広戸小学校 四年 戸川 なるみ

けんこうは

みんなをえがおに しちやうんだ

二本松市立原瀬小学校 六年 平栗 美加

「早寝、早起、朝ごはん」

みんなで習慣 健康家族

二本松市立二本松南小学校 四年 安達 朱里

安達太良に さけぶ 命の大切さ
あぶくまに うつる 人の美しさ

浪江町立津島中学校 三年 今野 美花

その命 たくさんの人の 愛がある

福島県立いわき総合高等学校 三年 谷口 楠

自分の夢 叶えるために
命と 体を 守ろうね

詩

詩

須賀川市立西袋第二小学校 六年 佐藤 沙也加

お父さんの手

あたたかい

お母さんの手

あたたかい

妹のほっぺ

あたたかい

生きているって

あたたかい

いのちってあたたかい

須賀川市立長沼東小学校 四年 小檜山 紗映

「どうして自殺を？」

私はニュースを見て

いつも思う

代わりなど

だれ一人いないのに

いない人など

だれ一人いないのに

病気で入院してた私は

命の大切さ

だれより知っているの

福島市立福島第一小学校 五年 田中 碧海

おぎゃあ！

そのひと声に

たくさんのお思いが

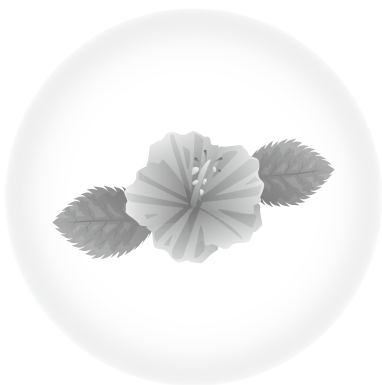
つまっている

「うまれてきたよ」

「生きているよ」

小さな命の

果てしない輝き



会津若松市立小金井小学校 五年 浦岡 里帆

「いのち」

母がくれたこのいのち

母からもらったこの足で

今を楽しく生きている

「いのち」

父がくれたこのいのち

父からもらった一言が

今のわたしをちからづけた

会津若松市立小金井小学校 五年 三浦 萌生

私は、

愛じょうをこめられて、

ここまで育ってきた。いやなことがあったら
親に相談してみよう。きっと相談相手にな
ってくれるはず。大人になったらこう思
わなくちゃ

「次は私が愛じょうをこめるばんだ」って
ね。

須賀川市立柏城小学校 二年 大槻 真凜

おばあちゃんが、おさんぽしたいとき、
わたしが右足になってあげる。

かなしくてなみだが出たとき、

わたしが右手でなみだをふいてあげる。

そして、たのしいうたをうたってあげるよ。

だから、ずっとえがおでいてね。

会津若松市立鶴城小学校 六年 安部井 伸之

いつてらっしゃい。

気を付けてね。

さりげない言葉のかけで心配されている

ぼくの命。

事故、病気、事件。

危険がひそかに狙ってる。

なくしたらいけない大切なもの。

自分の生命を

ぼくは守りたい。

玉川村立川辺小学校 四年 小原 伊織

わたしの家族は八人家族です。わたしは、家族の色々なことを知っています。その中で一番「いいな」と思った時は家族みんなで笑っている時です。ニコニコの顔が一番わたしの宝物です。みんなちがうけど愛は同じです。

須賀川市立柏城小学校 一年 大内 啓悟

ままとあーちゃんは、
ぼくのをひっぱりっこする。
ぼくのからだは、
はんぶんこになりそう。
かわいいからだって。
ぼくもままとあーちゃんがだいすき。

須賀川市立柏城小学校 三年 大槻 真凜

おばあちゃんの手は、左手しかうごかない。左手で、トラン
プやおはじき、なんでもできる。いつでも、あたたかいえがおと、
あたたかい手であく手してくれる。おばあちゃんがいて、お母
さんがいて、そしてわたしがいる。

三春町立岩江小学校 四年 佐藤 颯太

ぼくは、草むらで、キジのたまごを見つけた。さわってみた
ら温かった。中で生きていて、いのちが生まれるような感じ
がした。ぼくは、たまごをそっと巣において見守ってあげた。

三春町立岩江小学校 四年 吉田 愛梨

「カエルつかまえたよ。」妹の声。みてみるとシッポの生えたカエルが大人になろうと一生けんめい生きている姿に感動し、妹といっしょに逃がしてあげた。

「大きくなるんだよ。」

鏡石町立第二小学校 六年 添田 菜美香

いつも強がりという私。

ひいおばあちゃんが

救急車で運ばれた。

私の目からはポタポタ

ふいてもふいても涙がとまらなかった。

「それが命を思う気持ちなんだよ。」

とお母さんが言った。

福島市立福島第一小学校 二年 松本 空

食べものにも命があると、お母さんが教えてくれました。大切な命をいただくから「いただきます。」なんだって。いろんな命がわたしの元気になるなんてすごいな。だから、わすれないで言わないとね。心をこめて言わないとね。

二本松市立二本松南小学校 六年 岩本 佳歩

学校の帰り道、石を投げる高校生、ふと見れば、カモに投げている。「やってはいけません。」の一言言えず、自分にがっかり。高校生にがっかり。カモの命も人間の命も重さは同じ。大切な命。なぜ分らないのかと思う。

二本松市立二本松南小学校 六年 平舘 拓己

「いただきます。」

ご飯の度に当たり前のように言うこの言葉。

肉も魚も野菜も、

元は生きていたもの。

他の命をいただいて

僕たちは生きている。

毎日を生きている。

「いただきます」は、「ありがとう」なんだ。

福島市立福島第二中学校 一年 吉田 嘉子

大きな宇宙にある

小さな一つのいのち

どんなに小さくても

大切にしなければだめ

いのちがあったから

たくさん友達や物事と出会うことが

できた

いのちがなかったら

今の自分はない

大切にしよう

尊い命

福島市立蓬萊中学校 三年 鈴木 花苗

いのちが炎なら

言葉は風

やさしい風は炎を強くするけど、

強い風は炎を消してしまう

言葉を伝える前に

今、あなたが起こそうとしている風は

どちらですか

いわき市立磐崎中学校 二年 白土 桃子

「おはよう」

「こんにちは」

「いってらっしゃい」

日々もらっている

ささやかな愛

ほんの少しの愛だけど

それが大きな愛になる

白河市立表郷小学校 四年 大久保 雄飛

戦争に行って戦って、生きて帰ったひい
じいちゃんはおくのはこり。大事な命をお
みやげに。ばあちゃんと、お母さんが生ま
れて、おくが生まれた。

命のリレー。いつかおくも、つなぐよ。
命のバトン。

須賀川市立大東小学校 六年 吉田 愛実

青い空

白い雲

小鳥のさえずり

ゆれる草花

川のせせらぎ

さわやかな風

太陽の光

全ての自然を感じれる

それが

今、生きている証拠

郡山市立片平小学校 六年 鈴木 美咲

お母さんの手は、
すばらしい。
大じしんがきた時、
私の手を
ぎゅっとつないでくれた。
その手は、あたたかくて、
不安な気持ち
が
いつきに消えた。

郡山市立安積第三小学校 六年 金森 早香

動物が地面に
実を埋めた
それが木になり
木から実が落ち
林になった
たくさん
の木から
実がおち
森になった。
動物は 森の
お母さん
になった

郡山市立安積第三小学校 六年 安部 遥香

原発事故の

風ひよう被害

安全かもしれない

野菜も果物も

すべて捨てられる

今まで生きてきた

野菜や果物の命

何も悪いこと

していないのに

だれも悪くないのに

新地町立福田小学校 一年 五十嵐 美結

みつけたよ

たんぽにおふね

みつけたよ

たんぽにくるま

あつというまに

よんかげつ

みつけたよ

たんぽにひまわり

つなみにまけずに

さいている。

福島市立福島第一小学校 一年 斎藤 飛来

まいとしくるたんじょうび。

いつもちがうプレゼントをもらうけど、

一ばんさいしょのプレゼントは、パパやママが

いっしょうけんめいかんがえてくれた、

せかいにたった一つのわたしのなまえ

喜多方市立第一小学校 五年 山田 洋子

動物たちは生きのびる為、人間は欲のために争っている。そ

してその人間の欲望が集まったのが戦争である。それは人間や動物達の命が失われるだけではなくこの地球も壊してしまう。そしてそれをとめるのも人間である。

郡山市立桃見台小学校 一年 橋本 リンダ

おかあさんは、ははのひがすき。おとうさんは、ちちのひがすき。

おかあさんは、こどもからかんしゃのことはもらえるひだからすき。おとうさんは、てがみをもらえるからこのひがすき。わたしは、どっちのひもすき。

郡山市立桃見台小学校 一年 橋本 リンダ

いぬにもこころときもちがあるんだよ。どうぶつぜんぶにあるんだよ。にんげんだってあるんだよ。

どうぶつは、なきごえできもちやこころをつたえます。にんげんは、ことばやえがおでこころをつたえます。

福島市立福島第二中学校 一年 齋藤 星斗

私は、こわくなった。あの、震災が起こる前私は、恐怖など、感じたこともなかったのに。震災が、起こった時、私は心配した。

それは、父や母のこと、親友や兄弟のこと、そして、さまざまな人々の大切な命のことを

福島市立福島第二中学校 二年 鈴木 理央

うでの中の小さな命。ドクドクドクと、小さな鼓動とぬくもりが、（身体のしん）まで伝わってくる。忘れてはいけない。その鼓動を。そのぬくもりを。生きているということ。忘れてしまわないように、そっとだきしめていた。

いわき市立磐崎中学校 一年 樋田 美貴

皆で手をつなごう。

そして、おもいっきり笑おう。

大変なことがおきたらくじけてたって

しかたない。

もう一度、笑顔をつくって笑おう。

皆が笑顔でくらせる福島をとりもどそう！

いわき市立磐崎中学校 一年 藤島 花

似ているねって

よく言われる。

お父さんにそっくりね

お母さんにそっくりね

父と母は似てないのに

二人にそっくりなんて

とても不思議。

家族って不思議だな。

なんだか変な気持ち。

それがとてもうれしい。

須賀川市立小塩江中学校 二年 竹内 梢恵

忘れるな

あの一瞬のでき事を

忘れるな

自然に対してなすすべがなかった事を

忘れるな

帰りたいと思う故郷を

忘れるな

命を張って人々を助けた英雄^{ひと}を

思い出せ

日本人の誇り高き美しさを

天栄村立大里小学校 六年 金子 真唯

家の前の山がくずれた

山の土は

田んぼまできた

もう少しでぼくの家も

うまるところだった

信じられない

光景を目にして

家族の無事を感謝した

こわれかけた家の中

みんなの笑顔があった

学校法人松韻学園福島高等学校 二年

安斎 秀喜

悔しかった。

震災があったのに何もできずにいる

ちっばけな自分が。

怖かった。

急に変わった周りの視線が。

嬉しかった。

「応援してるよ」って言ってもらえる

ことが。

「ありがとう」とたくさん笑顔に

出会えたことが。

福島市立福島第一小学校 一年 国分 煌史郎

五月にあかちゃんがうまれました。ぼくのおとうとです。あかちゃんがおっぱいのんでいるところがとってもかわいいです。なつやすみにおむつこうかんのおてつだいをします。

あかちゃんはぼくのたからものです。

二本松市立二本松南小学校 六年 三浦 菜都美

わたしたちは

命を食べて生きている

食べられる物たちの

思いを考え食べてみる

きれいな物も少しだけ

すきな物にかわるかな

わたしたちは

命を食べて生きている

そのめぐみに感謝して

わたしたちは生きる

二本松市立原瀬小学校 三年 渡辺 華歩

前に、

ハムスターを育てていたよ

名前は
「モモ」

だけど、五年前の冬、
さむくて死んじゃった

家の近くに
やさしくうめたよ

モモ、

私のことおぼえてる？

私は

モモをわすれない

今日もモモに
お花をあげるね

郡山市立安積第三小学校 六年 佐藤 未憂

東日本大震災で

多くの人々の命が

うしなわれた。

けれど

人々の温かい気持ちは

失われなかった。

だからこうして

今がある

人々が助け合い

信じ合えるかぎり

郡山市立桃見台小学校 一年 續橋 秀人

めがでたよ

ぼくのあさがお

ぐんぐんのびて

びんくのおはなが

たくさんさいて

かれてもたねが

できるよね

そしていのちが

つながるよ

須賀川市立長沼東小学校 六年 添田 遥

あなたやわたしが
生きてゆけるのは
だれかを想うその心があるから
だれかに想われて
いたいから
大事だよって
言ってもらいたいから
そんな気持ち大事
いつまでも忘れないで

会津若松市立小金井小学校 六年 栗城 日菜子

生まれてくる命と老いていく命。七十才をすぎて、はなれた
町に独りで暮らす祖母の事が心配になる。「元気？」と電話の
祖母の声。祖母もまた私達の心配をしている。私達は大丈夫だ
から、いつまでも元気で長生きしてね。

新地町立新地小学校 五年 佐々木 真白

ふしぎだね、絆が強まる家族の輪。

大丈夫、星になった人の分だけ強く生きる。

こんなことを思った一年間：

けど怖かった、震えながら寝たあの日の夜。

悲しかった、泣きながら見た、育った家。

福島市立福島第二中学校 二年 鈴木 友梨

私は知った

時がたっても心に傷を

負ったままの人がいる事を

私は知った

大切な人を失った人が

まだたくさんいる事を

私は知った

それでも生きようとする人が

多くいる事を

福島市立福島第一中学校 三年 宇野 翔

小学校の 卒業式はなかった

返事や合唱の練習をあれほどやったのに

卒業証書は 校長室で

学校は 先生は 友達は 無事だった

先生方の拍手や言葉は 一人で受け取るに

は温かすぎた

喜多方市立第一小学校 四年 國分 真生

うちのおはかは小さい。

おぶつだんも小さい。

赤ちゃんのだから。

お姉ちゃんは、

一才になる前に天国へ行ってしまった。

だけど、

ごはんもケーキも分けっこしている。

たとえ天国にいても、

大切な家族の一員だから。

喜多方市立第一小学校 四年 田中 紳介

お母さんの手は

ぼくよりちよっとだけ大きくて

やわらかくてあったかい

手をつないでぼくがギュって力をいれると

ギュって返してくれる

すごーくほっとするんだ

ぼくと命がつながっているからなのかな

学校法人桜の聖母学院小学校 三年 占部 太提

そぼの家で

まめのかわむきをしていたら

まめにいも虫がついていた

これは小さいのち

あたたかいのち

だから

そっと、外の葉にのせてあげた

二本松市立原瀬小学校 四年 志賀 海人

三月十一日に大きな地震があった

次の日はぼくのたん生日

おばあちゃんがケーキを買っていてくれた

うれしかった

プレゼントはなかったけれど

ケーキと

「海人、おめでとう。」という言葉が

本当にうれしかった

郡山市立富田西小学校 五年 平 琉之介

海で遊んでは

いきません

公園で遊んでは

いきません

つりをしては

いきません

いきません、いきませんって

じゃあ、どこで遊べばいいんだ

須賀川市立西袋第二小学校 一年 曾我 綾音

「いってきます」

「いってらっしゃい」

「ただいま」

「おかえり」

おじいちゃん、おばあちゃん、おとうさん、

おかあさん、いもうと、

これからもまいにち

あいさつしようね。

須賀川市立大森小学校 六年 熊田 陽

「ありがとう。」

その一言で、相手から、

「いいえ、どういたしまして。」

という言葉が出てきて、人と人がつながる。

そして、友達がまた一人、また一人と増えていくといいな。

鏡石町立第二小学校 四年 遠藤 優作

あきこばあちゃん元気ですか

天国は楽しいですか

天国はどういう所ですか

この前運動会でぼくは一位をとりました

歯のポスターで 賞をもらいました

もし今度会ったら おしえてあげたいです

天栄村立牧本小学校 四年 熊田 翔太

ほうしゃのう

いつになったら

なくなるの

お母さん

赤ちゃんうむの

まよったね

こんにちはぼくの弟

りゆうた君

だれか消してよ

ほうしゃのう

喜多方市立第一小学校 四年 山田 晃大

朝、目がさめる。

太陽の光や小鳥の声、風の音。

いろいろゆっくり僕をつつんでいく。

今日も元気だ、うれしい。

手を伸ばし足を伸ばす。

太陽は笑ってる。

風は僕の頭やほほをそっとなでてゆく。

元気は僕の宝物。

福島市立福島第一中学校 二年 長正 憲武

家がなくなった

街がなくなった

人が亡くなった

でも

絆が生まれた

感動が生まれた

世界が一つになった

失ったものばかりじゃない

得たものを数え一歩ずつ前進しよう

福島県立白河実業高等学校 三年 青木 匠

なくそうよ

差別といじめと無関心

やめようよ

見ないふりと知らんぷり

育てよう

認める心と思いやり

考えよう

命の儚さ 尊さ

大切な命

いらない命は一つもない



白河市立みさか小学校 四年 金澤 頼志

夜のオートキャンプ場のかたすみ：

古い柱に付いたかさのある電灯の優しい光の下、新しいセミ

の命が誕生するしゅん間にぐう然出会った。

しわしわのとう明な羽を見たばくは、命の美しさを感じた。

生きろ！生きろ！

須賀川市立第二小学校 四年 渡部 隼

双葉の家に取りに行きたいもの

集めていたキーホルダー

いっしょにねてたくま

小さい時の写真

思い出いっばいだけど

もう帰れない

だからここでがんばる

一生けんめいがんばる

夢に向かってがんばる

福島市立福島第一小学校 二年 長沢 一花

オクラをうえたよ。

はっぱが出て、花がさいたら、みになったよ。みは、小さかったけどだんだん大きくなったよ。

オクラをとってたべたよ。

おいしかった！

わたしもどんどん大きくなるよ。

須賀川市立第二小学校 一年 根本 海実

あのひ、三さいだったぼくがおぼえていることが、ふたつある。

ほいくえんのつくえのしたにみんなでかくれて、こわかったこと。

おにちゃんとままがむかえにきてくれたとき、ぼくはうれしくて、ままにとびこんだ。

須賀川市立阿武隈小学校 六年 鈴木 陽

わたしの心

ほかほかふわふわ

まあるい心

とげとげちくちく

サボテン心

時々 サボテンの 心が勝つ

その時は 深呼吸

そして まあるい心が

ふくらむのを待つよ

福島市立福島第一中学校 二年 湊 未沙

僕はあの場所へ来た。

忘れたかった、あの場所へ、来ていた。

そこで見つけた。

荒れ果てたビルの中に

一つ咲く芽を、僕は観た。

まるで「生きたい。」と叫んでいるようで、
生理的な涙が僕のほおをゆっくりと伝った。

福島県立郡山商業高等学校 二年 阿部 真実

ある日町へ出た時、五歳位の男の子が母親に、

「お母さんは僕がずっと守るから安心してね」
と言っていた。

その親子に何があったのかは分からない。しかし、小さいはずの男の子の背中は、どんな大人よりも大きく、力強く見えた。



双葉町立双葉北小学校 五年 渡部 未空

地震 津波 原発事故

とてつもなく

つらくて苦しくて

でも 今の私は

あの時とちがう

笑顔も気分もやる気も

ある ある ある

いつか帰ろう

大好きなふるさとに

みんないっしょに

福島市立福島第一中学校 二年 吉原 みさき

「私には居場所がないから…」

そう言う友達がいる。

でも、本当にそうだろうか。

クラスにも、部活にも、待っている人がいるはず。

だから、今日も私は声をかける。

「一緒に行こう。」

伊達市立堰本小学校 一年 小賀坂 有珠

おじいちゃんの
たんぼやはたけで
つくっているもの
おこめ
あんぽがき
ミニトマト
さつまいも
ねぎ
きゅうり
みんなのえがお

郡山市立桃見台小学校 二年 須田 泰地

ばあちゃんちの海のそば
つなみにまけずのこった
かしまのきせきの一本まつ
かづよくねをはり
空にむかってまっすぐ
立っている
すごいな
つらいことがあっても
ぼくも
一生けんめい生きよう
あの一本まつのように

喜多方市立第一小学校 五年 佐野 七海

あなたは どうして
そんなに つよいの
一人で 育ち
最後に たくさんの
わたげをとばして
かれて ゆく
私は たくさんの 人に 愛を残す
強い 人になりたい
たんぽぽの ように

いわき市立草野小学校 二年 小野 義斗

ぼくの いのちは、色い ろなた べもの でつく られて いる。
おばあちゃん は、ほうし ゃせん がしんぱい で やさい をつく ら
なくな った。
でも、ことし は、おばあちゃん のは たけは にぎや かです。
とれた やさい をたべ て 大き くなる ぞ。

私の一〇〇文字提案

私の一〇〇文字提案

石川町立山形小学校 四年 添田 春

山形小学校には先生がいっぱいいます。それは、ぼく達のお
ばあちゃんです。

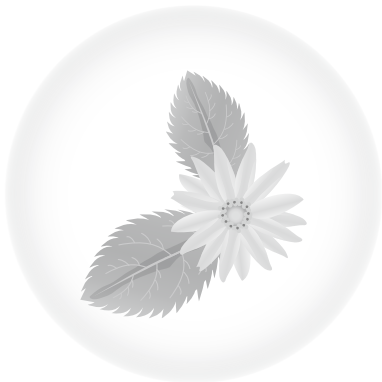
学校では毎年「団子づくり」や「さつまいものなえ植え」を
学習します。その時に、先生になって、ていねいに教えてもら
います。

郡山市立小泉小学校 六年 大木 尚美

私の学校は九十人と少人数ですが、みんな仲よしです。全校
生で清掃、鼓笛、集会などたくさん行事を仲よくやっていま
す。一年生は六年生を見つけると走ってきて甘えます。私の学
校は仲よしではどこにも負けません。

郡山市立二瀬中学校 三年 大河内 亮兵

わたしの学校の自慢は、しっかりあいさつが出来ることです。
二瀬中学校は郡山市の中で一番小さい学校ですが、あいさつだけは郡山市の中で一番すばらしいと思います。これからも、しっかり続けていききたいと思います。



湯川村立勝常小学校 六年 大場 理沙

私は去年、デイサービスセンターでボランティアをした。私は、絵本の読み聞かせをした。みんな喜んでくれてうれしかった。今度は手足の不自由なお年寄りのために役に立つ手伝いをしたい。また喜んでくれるかな。

檜枝岐村立檜枝岐小学校 三年 半谷 彰啓

ぼくのゆめは、大きくなったらお医者さんになることです。そして、せかい中の病氣やけがで、こまっている人たちをたすけるボランティアをしてみたいです。そのために、命のべん強を一生けん命やりたいと思います。

いわき市立平第一中学校 二年 根本 泰紀

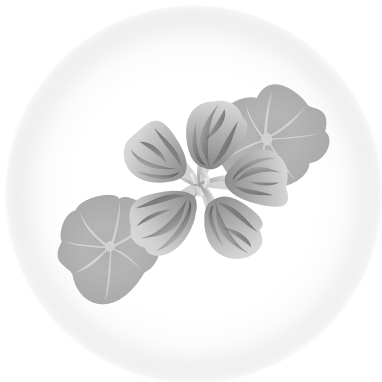
父の献血暦は二百二十回。祖母が手術で受けた輸血のお礼だそうだ。最近、店が忙しいのと体がきついので献血できないらしい。では、僕が献血のボランティアを受け継ごう。健康な血を分けるため剣道で鍛えておくぞ。

会津坂下町立第一中学校 三年 佐藤 華奈子

私がやってみたい事は、施設を訪問していろいろな人と接することです。そう思ったのは、小学生の頃老人ホームでダンスを発表した時、私達のダンスを見て涙を流してくれたおばあちゃんのことが忘れられないからです。

福島県立川俣高等学校 一年 佐藤 綾

私は七月で十六歳になります。そうすると献血をすることが
できる。なので、血のたりない人のために、少しでも多く血を
わけてあげたいと思う。その血でいくつもの命が助かることを
願いながら、協力していきたいと思う。



いわき市立赤井小学校 六年 高橋 千尋

世界の見知らぬ私の友へ一言。あなたは一人じゃない。人間、動物、植物…みんな友達。みんなつながっている。あなたは、先祖がいたから生まれ、友と出会い、みんなと出会う。そして気付く。自分は一人じゃない、と…。

福島市立蓬萊中学校 三年 渡辺 美佳

あなたには大切な人がいますか。私にはたくさんいます。それは家族や友達、それからあなたです。そんな大切なあなたにこの言葉を送ります。

「あなたは一人じゃない。みんながそばにいるよ。」

郡山市立小泉小学校 六年 中山 野々子

わたしは去年から福祉少年団に入っています。一人暮らしのお年寄りの方にお手紙を書いた時、その人から電話がかかってきてとてもうれしかったです。顔が分からなくても人はつながっているんだなと思いました。

本宮市立五百川小学校 六年 遠藤 健

「けっこうゴミがあるなあ」と一年生がつぶやいた。そのあと三年生などもつぶやいた。けれどもやり始まったらそのつぶやきがなくなりみんな真剣にきれいにしようがんばった。ばくもまけじとがんばった。暑い中、きれいにしようやっつくうちにみるみるきれいになっていくのがわかり最後には「きれいになったなあ」という声聞きこえついにきれいになりました。

本宮市立五百川小学校 六年 川前 大樹

「地域をきれいにしよう!!」そんな気持ちでボランティア活動に臨みました。「副班長。ハイ、ごみ!!」といって小さい子が手の平いっぱいにしてごみを持って来た時、嬉しかったけどちよつと悲しい気分がした。

本宮市立五百川小学校 六年 加藤 柚葉

一年生が、窓を一生けんめいふいて言った。「ねえ、ぞうきんがこんなになっ黒くなったよ。」「それは、がんばってふいた証だよ。」

学校中がきれいになった。そして、私の心もきれいになった。これからは、自分からボランティアに取り組んでいこう。私は、そう思った。

川俣町立小島小学校 六年 田代 昌紀

ぼくは以前、車が動かなくなり、助けた事があります。少し押しただけなのに、とても喜んでくれました。だから少しでも他の人助けになる様な活動もしたいと思います。自分もきもちいいし、相手の笑顔もうれしいから。

浪江町立津島中学校 三年 三瓶 美穂

一日一善。これが私の座右の銘です。毎日毎日、小さな事でも一つずつ、人の役に立てるよう心がけています。小さな親切が相手も自分も幸せにするきっかけになると思うからです。みんなので親切の輪を広げてみませんか。

福島県立いわき総合高等学校 一年 内田 綾乃

私が所属しているJRC部では、花壇整備やゴミ拾い、献血運動などのボランティア活動をしています。

ちょっとした活動ですが、私にとってボランティア活動は、人間性を向上できる活動だと思っています。



須賀川市立柏城小学校 四年 永山 智基

お父さんは、車を直す仕事をしています。手は油でいつもまっ黒です。お父さんは、まっ黒の手でさわってくるので、ぼくはいつもにげます。でも、一生けん命働いているのでありがとうございます。

二本松市立原瀬小学校 六年 安達 春美

私の家族は、農業を営んでいます。だから毎日おいしい野菜が食べられます。野菜は、父と母と祖母の汗の結晶です。だから安心して食べられるし、世界一おいしいです。今日も家族そろって楽しく「いただきます。」

二本松市立二本松南小学校 二年 のむら かほ

「弟か妹がほしい。」

とお母さんに言うと、

「赤ちゃんは、おもちゃじゃないよ。」

と言われた。わたしは、ちゃんとおせわもするし、オムツもこ
うかんできるのになあと思った。命をおもちゃだなんて思っ
てないよ。

いわき市立磐崎中学校 一年 小山 千晶

私の弟は障害を持っています。弟と一緒に生活をしていてつ
らいと思ったことはいっぱいあるけど弟を支える私がつらいと
感じてはダメなのです。私は障害も一つの個性だと思います。
私はずっと弟を支えたいです。

学校法人昌平覺東日本国際大学附属昌平高等学校 三年 根本 明恵

私の家族は、私の宝。父の強さに守られて、母の温かさに育てられ、兄の厳しさに学ばされ、妹の優しさに癒されて、時にはうるさく感じるが、私にとってたった一つしかないもので、とても大きな存在だ。

だから大切にしたい。



檜枝岐村立檜枝岐小学校 四年 平野 まどか

国の名前はわからないけど、今も地雷で傷ついている子どもたちが、たくさんいることを知りました。もし、私にまほうが使えたら地雷を全部取りのぞき、そこに住む子供たちと、思いっきりかけっこをしたいと思います。

福島市立福島第一小学校 五年 幕田 かな

私が行きたい国はザンビアです。理由はお母さんが昔青年海外協力隊行ってボランティアをしてきたからです。私もお母さんのように青年海外協力隊でいろんな人を助けられたり交流をたくさんしたいです。

泉崎村立泉崎第二小学校 五年 柳沼 絢乃

わたしの行きたい国は、アフリカのまずしい国々です。めぐまれていない人たちがどんくらしをしているか、どんな物を食べているかをこの目で見たいです。そして自分にできることを考えたいと思います。

郡山市立二瀬中学校 三年 佐久間 悠

私はアフリカに行ってみたい。日本という恵まれた環境の中で感じる命の重みと貧しい国で育った命の重みはきっと違うはず。向こうで命の重みを知り、新しい角度で命を見つめ新しい自分を見つけれれると思う。

学校法人昌平覺東日本国際大学附属昌平高等学校 三年 渡邊 祥平

わたしの行きたい国は、外国ではなくわたしの住んでいる日本である。豊かな緑に囲まれたこの日本。まだまだわたしたちの知らない場所がある。

外国へ行くことよりも、もっと日本を知ることからはじめよう。



鏡石町立第二小学校 一年 鈴木 香花

かいものぶくろ

いっぱい

ゴミひろいをしたってだれもよろこんでは

くれないけれど

わたしのあるくみちはニコニコ、ピカピカ

ありがとうがなくてもわたしのこころは

ニコニコ、ピカピカ

本宮市立五百川小学校 五年 根本 悠平

自分の周りからきれいにしようと思いだた箱そうじをした。

やってみると「砂が多いなあ。」「ぞうきん真っ黒だ。」と思った。

がんばってきれいになった時少しほこらしい気分になった。小

さなことだけと続けたいなあ。

福島市立福島第一小学校 五年 遠藤 ひとみ

ある日の町内清掃で拾ったタバコの本数は43本。一日にこれだけ捨てられたとすると…

2日で86本

3日で129本

一週間で301本

一カ月で1290本

タバコをすう人達よ

それでも捨てますか？

郡山市立小泉小学校 六年 我妻 奈菜

私は、社会福祉少年団に入って、ボランティアをやっています。ボランティアをするとなんだかとても、あたたかい気持ちになります。私にとって、ボランティアは、役に立つこと、自分の心を育てる活動だと思います。

須賀川市立柏城小学校 五年 太田 美聡

人や生き物や地球のためにお金や物をもらわず役に立つことをするのがボランティアです。それはかん単なことではありませんが、そこでできるたくさん仲間や「ありがとう」の言葉は自分の「心」を育てる栄養になると思います。

会津坂下町立金上小学校 六年 青木 日向子

おばあちゃんが荷物を持って横断歩道を渡っていた。私は声をかけて荷物を持った。

おばあちゃんは、

ニコっと笑った。

私も、

ニコって笑った。

私はとても温かい気持ちになった。

伊達市立上保原小学校 六年 松田 佳穂

学校の帰り道、私は一人のおばあさんに「こんにちは」とあいさつをしました。するとおばあさんはニコニコしながら私に昔の話をしてくれました。私は、私にできるボランティア、こんにちはを続けていききたいと思います。

西会津町立西会津中学校 一年 新田 真希

ボランティア・・・

困った人を助ける、

皆のために

役立つこと、

一人ひとり思うことは違うけれども

何かをしたいことは皆同じ、私も皆のために役立ちたい。世界の人を助けたい。

いわき市立磐崎中学校 二年 齊藤 愛由美

ボランティアをするとみんな「ありがとう」と笑顔で言ってくれます。ボランティアは大変です。でも今までやめようと思ったことは一度もありません。それは笑顔をくれる人がいるから。ありがとうと言ってくれるから。



福島市立福島第一小学校 五年 遠藤 ひとみ

私にはダウン症の友達があります。ダウン症の子はひょうきんでかわいいです。上手に話せないけど、理かしいしうとしながら聞くと、聞き取れるようになってきます。みなさんもスペシャルフレンドを作ってみませんか？

二本松市立原瀬小学校 一年 ひらくり くれは

「ありがとう」は、ともだちになるまほうのことば。「おはよう」は、こころがいやされるふしぎなことば。なまえをしないとともだちになって、たくさんあそべる。ともだちになることばを、いっぱいみつきたいな。

二本松市立二本松南小学校 六年 村松 奈侑

「学校、いやだなあ。」

そうわたしが言うのと、

「どうして？学校は理科の実験とか、楽しいことばかりじゃん。」

その子は、わたしをそう言ってはげましてくれた。こんな、

小さな一言が心を温かくし、勇気をもくれた。

須賀川市立柏城小学校 一年 やすだ りょう

ぼくは、にゆうがくしてとなりのひとと、ともだちになった。

うしろのひととも、ともだちになった。

つぎのひ、かえるひとと、ともだちになった。こうやってま
いにちひとりずつともだちふえたらたのしいな。

伊達市立上保原小学校 六年 内藤 瑞稀

「学校」という名の花壇に「生徒」という名の種をまきます。
そして「絆」という名の肥料をまきました。

するとそこは「友達」という芽が出て「親友」という葉がつき
「友情」という花が咲きそして「永遠」という種に戻るのです。



鏡石町立第二小学校 一年 添田 隼杜

くるまでドライブもいいけど、じてんしゃでサイクリングはさ
いこうだよ。くさはなをちかくでみたり、きれいなかわをな
がめたり。はやねはやおきしよう。でんきがせつやくできるよ。
だんだんちきゅうがひえていくよ。

泉崎村立泉崎第二小学校 三年 田中 里咲

お父さん、エアコン止めて夜風にしようよ。ほら、カエルの合
唱が聞こえるよ。お母さん、近いなら歩いて行こうよ。ほら、
きれいなお花が咲いてるよ。私と妹は、物を大切に使うから。
CO₂をへらして地球を守ろうよ。

郡山市立桃見台小学校 五年 高木 美咲

地球温暖化を救うために、わたしの家では夏になると、朝顔やふうせんかずらを植えて緑のカーテンを作っています。エアコンを使わなくてもすずしいです。これからも、エコを積み重ねて、地球を守りたいです。

いわき市立磐崎中学校 二年 長谷川 葉

クーラーのない夏の教室は本当に暑い。どうすれば涼しくなるのでしょうか？祖父・母の家にはクーラーがありません。しかし涼しいのはすだれや打ち水をしていたからです。

この知恵は地球も人も暑さから救うかも？

いわき市立磐崎中学校 二年 山崎 栞

暑さは見ためからもということ、自分の周りにあるものを夏は寒色系のもの、冬は暖色系のものを置くなど、デザインで涼しさ暖かさを感じるのも地球温暖化を防ぐ一つの方法につながっていくのではないだろうか。



須賀川市立柏城小学校 五年 北野 百笑

私はいつも週末の朝は妹のためにごはんを作っています。今まで、チャーハンやホットケーキなど色々な料理に、挑戦してきました。毎週うでも上がって、妹はいつもおいしいと喜んでくれます。お姉ちゃんもつとがんばるね。

須賀川市立柏城小学校 六年 堀合 風花

私の挑戦は、人が困っているのを無視をしないことです。お店などで、しょう害のある人やケガをしている人を見かけます。でも、なかなか声がかけれないのがいつもくやしいです。声をかけられるようにがんばります。

会津若松市立鶴城小学校 五年 羽曾部 修平

ぼくの挑戦は、二百ページ以上ある牧野富太郎植物記を全冊（八冊）読み終わることです。今は、二冊目ですが、なかなか読み終わりそうありません。でも、八冊読破めざしてがんばり、植物に詳しい人になりたいです。

会津若松市立鶴城小学校 六年 佐久間 由芽

私が今チャレンジしていることは、友達の良さを発見すること。つい私は、人の欠点ばかり見えてしまい、その人の良さに気づきません。だから、友達の良さを自分に取り入れられる、素直な心をもちたいと思います。

二本松市立原瀬小学校 六年 馬場 ちはる

私は、いじめをなくそうと挑戦しています。生活の中での友達との接し方に気を付けています。小さな命が消えてしまう事があります。

相手を思いやることのできる友達の輪を広げていきたいと思っています。

いわき市立磐崎中学校 一年 小磯 景子

私の挑戦したいことは、百冊読書です。小学校の時も百冊読めたので中学校でも百冊読めるようがんばります。読書で、たくさんの方の思いに触れて、その思いに共感できるほど、心が豊かになれたらいいと思います。

須賀川市立柏城小学校 三年 阿部 愛海

「ありがとう。」私はこの言葉が大すき。この言葉で、だれでもえ顔になる。ボランティアの仕事は、「ありがとう。」がいっぱいあふれている。私にもできる事でせかい中を「ありがとう。」でいっぱいになりたいな。

福島市立福島第一小学校 一年 赤井 玲玖

どうぶに、おとうさんとけんけつせんたあにいきました。おとうさんはけがやびょうきでこまっているひとのためにせいぶんけんけつをしました。いたそうでしたがわたしもおおきくなったらけんけつをしようとおもいます。

福島市立福島第一小学校 六年 遠藤 ひとみ

お年寄りに席をゆずった時、「年寄りじゃない。」と断わられた。ショックだった。別の日、もう一度勇気をふりしぼり席をゆずった。「ありがとう。」と笑顔で言われた。ホッとした。後からじんわり温かい気持ちになった。

本宮市立五百川小学校 六年 遠藤 大夢

いつもさりげなく通っている道に、ごみがたくさんおちていることに気づいた。ゴミ拾いをする、町がきれいになる。みんなが気持ちよく歩けると思うと、自分もうれしくなる。ボランティアってそういうことなんだ。

檜枝岐村立檜枝岐小学校 五年 星 綾真

ぼくは、ふるさとの檜枝岐村が大好きだ。

そして、じまんでもある。尾瀬、ひうち、こまがある。

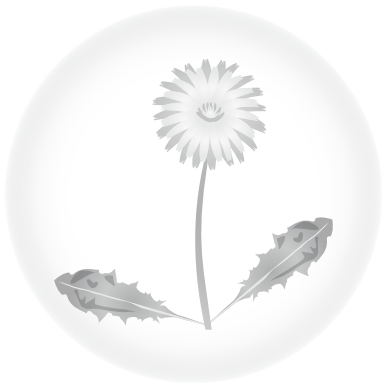
これらの山々は全部がじまんである。檜枝岐は、植物や山の王国だ。ぼくは大人になって仕事についても帰ってきたい。

会津若松市立鶴城小学校 六年 玉川 亮太

会津は、戊辰戦争や白虎隊の歴史があります。その中には、
什の掟という教えがあります。その教えは、あいづっこ宣言に
なつて、現代のぼく達にまで伝えられています。これを会津の
ほこりと思い守っていききたいです。

いわき市立磐崎中学校 三年 後藤 沙也

私はふるさが一番好きです。都会みたいに大きいショッピングセンターも高いビルもないけど、学校帰りにどこかの家のごはんのいいにおいがして、近所のおばさんが「おかえり」と声をかけてくれるここが大好きです。



会津若松市立小金井小学校 六年 浅沼 瑞穂

私の挑戦は、やさしい六年生になることです。一年生は、まだ分からない事がたくさんあるので、困っていたら、助けてあげます。でも時には、ふざけていたら、注意をする、そんな、やさしい、六年生になりたいです。

会津若松市立小金井小学校 六年 菅井 吹樹

ぼくは、人に感謝の気持ちがあってもありがとうと言えませんが、だから人から親切にされたら、その人に「ありがとう」と言いたいと思いました。それにぼくも人に親切にして、感謝の気持ちをありがとうで受け取りたい。

須賀川市立柏城小学校 六年 佐藤 恒汰

ぼくが、今挑戦しているのは、ペットボトルのキャップ集めです。八百個で（1人分二十円）のポリオワクチンができるそうです。こんなに集めて、1人分なのでとても大変なことだと思いますが、資源のためにも続けます。

鏡石町立第二小学校 一年 根本 大輝

さかあがり

なんかいもしっぱいしたけれど、

いっぱいれんしゅうしてできるようになった。

ぐるん ぐるん

ちきゅうもいっしょに

さかあがり

しているみたいだ

鏡石町立第二小学校 一年 添田 葉月

しゅわってしってる？

おみみのきこえない

ひととおはなしでできるほうだよ。

おかあさんとサークルでべんきょうして

もっと しゅわで

おはなしできたら

たのしいだろうな。

鏡石町立第二小学校 一年 会田 彩

なまえもしらない

かおもはじめてみた

ふあんでいっぱい

ともだちになりたいくて

ゆうきをだして

「いっしょにあそぼう。」

ドキドキしたけど、

「いいよ。」のことはでしぜんとえがおになれた。

鏡石町立第二小学校 二年 石井 琴乃

わたしは、エコにチャレンジしています。

おかいものときは、じぶんのバッグをもっていきます。

おふろの水もせんたくにつかいます。

おこめのとぎじるは、お花にあげています。

福島市立福島第一小学校 一年 菅野 晴史

4さいのときびょういんでしんぞうのあなをなおしてもらいました。そのときおいしゃさんやいろんなひとにしんせつにしてもらいました。だからぼくもみんなのためにいろんなぼらんていあをしてみたいとおもいました。

喜多方市立第一小学校 五年 河口 将也

「おまえそんなこともできないのか」

そんなことをいわれると

「人間には得意不得意があんだろお」

と思う。だが人間はそこで止まったら終わり。あきらめずにやる
ことが本当の挑戦だ。

国見町立藤田小学校 五年 保坂 絃太

ぼくは、今、ボランティアをがんばっている。今は第六回目。
だけどゴミはなかなかへらない。でもあきらめない。ゴミを集
め、ゴミのない国見町にしたい。第十回でも第何十回でもいい。
ゴミのない国見町にしたい。

福島市立福島第二中学校 二年 宮崎 和也

私は前、目の見えない女の人を見ました。私は助けようか迷っている、小学三年生ぐらいの子がさっと手を差し出し、助けていました。私は、それを見て心が温かくなり、これからはボランティアしようと思いました。

福島市立福島第二中学校 三年 芦沢 菜緒

二度と忘れない十四の夏。肌と心でつながり合えたあの日から心に決めた〓留学〓人のあたたかさに気づかされた一ヶ月のホームステイ。またあの場所に戻るといふ思いで日々の努力を一步ずつ。私は踏み出す。次の扉へ。

福島市立蓬萊中学校 三年 野崎 ひな子

一昨年ほど前、祖母は足を悪くし、歩くことをあきらめた。
しかし、今ではまた散歩ができるようにと、リハビリに励んで
いる。そんな祖母の足になり、また散歩ができるように支えて
いくこと。それが私の挑戦である。

福島市立蓬萊中学校 三年 菅野 琴華

私の挑戦は地球の緑を増やす事です。今、人間の手で多くの
森が破壊され、多くの動物が住みかを失いました。

これは一生償えない人間の罪ですが、私は人間の一人として
人と動物が共存する美しい地球にしたいです。

須賀川市立大東小学校 六年 関根 樹南

私は、猪苗代湖をきれいにするボランティアをやってみたい。
猪苗代湖は、水が汚れそうでその原因は、ゴミ。そのゴミを拾って、猪苗代湖をきれいにしたい。福島県がきれいになるように小さいことでも始めてみたい。

郡山市立安積第三小学校 六年 正木 海登

ぼくは、環境や暮らしをよくするために道路や公園におちているゴミを、たくさん拾って町をきれいに、美しくしたいです。拾うだけではだめなので町の人への呼びかけなどにとりくみ、きれいな安積町にしたいです。

須賀川市立稲田小学校 六年 大河原 みなみ

笑顔で人は救えない。私はそんな事は思っていない。近所のおばあさんに笑顔であいさつをしてみましょう。笑顔で人の命は救えないかもしれませんが、笑顔で人は元気になります。そんな笑顔ボランティアがしたいです。

福島市立福島第一小学校 一年 石田 凜成

ぼくは、このまえ、こおりのほたるまつりにいきました。ほたるはきれいなみずべにすんでいるそうです。ぼくたちのまちにもほたるがすめるように、ぼくはかわそうじのボランティアをやってみたいです。

福島市立蓬萊中学校 三年 清野 吏臣

ぼくがしたいボランティアは介護です。姉が介護福祉士で毎日の苦勞を家で話します。それを聞くと、大変だけどやりがいはあると思います。それを通して、高齢者の生活を知り、接し方も変えていききたいと思います。



郡山市立桃見台小学校 三年 佐久間 貴子

「マリー・ルイズさんのすごいところ」

自分で思った事を正直に話せる事。いろいろなけいけんをしてきた事。日本語が上手な事。自分の国を大切にしている事。あたり前だと思っていた水道から水がのめる事やべん強ができる事が幸せだと教えてくれた事。

喜多方市立第一小学校 六年 上野 凜花

「瓜生岩子さんのすばらしいところ」

自分の財産をさしだして、生活にこまった人を助け、病気になった人達に介護をし、日本で初めて社会福祉を行った事は、大変すばらしい事だと思います。

私もこのように、人とのつながりを大切にしたいと思いました。

喜多方市立第一小学校 六年 河口 礼佳

ある日、友達と近くのコンビニでおかしを買ったとき、多くお金をはらった分、戻ってきたお金を、彼女は目の前の募金箱に入れました。見たことのない行動だったけど、とても良いことなので、私もまねして入れました。

福島市立福島第二中学校 二年 阿部 秀捷

私は大介さんを見て驚くことがあります。

それは、車イスに乗って生活しているのに自分の大きな目標にむかって頑張っているからです。

私も、大介さんのように、自分の目標を持ち、頑張りたいです。

福島市立福島第一小学校 六年 鈴木 優利

わたしは街頭募金に毎年参加しています。そのたびに気づくことがあります。協力してくださる街の人がみんな必ず笑顔でお金を入れてくれてることです。私はそれを見て心が温かくなりました。この笑顔も届くといいな。

学校法人山崎学園福島県磐城第一高等学校 二年 鯨岡 奈那子

赤十字を通しての私の気づきは、踏み出す勇気の大切さです。自分の意志を伝えたり、人の為と何かするということ事は恥しいけれど、一歩踏み出す勇気があれば活動が広がるということも分かりました。これが私の気づきです。

須賀川市立大森小学校 六年 関根 友太郎

「シュートだけがサッカーじゃないよ。」

ディフェンダーであまり活躍できなかった僕に友達のお母さんがかけてくれた言葉。周りの助けがあって成り立っている主役。

主役になれなくてもそれを支えるもう一つの主役だ。

須賀川市立稲田小学校 六年 常松 奈々子

人が言う一言は、傷つくこと、悲しむこと、うれしくなること、あたたかくなることがある。「きらい！」などは人の心をこわしてしまう。「すごい！」などは自分と相手をつなぐ。うれしい言葉は相手も自分もうれしくなる。

伊達市立掛田小学校 二年 菅野 隼

「隼へ、一週間休まずがんばりましたね。」

「きょうのおべんとうには、なの花が入っています。春をあ
じわってください。」

お母さんは、ぼくのれんらくちょうに手紙をくれる。いつも
おうえん、ありがとう。

新地町立福田小学校 一年 鈴木 啓行

ぼくのじいちゃんはりょうでした。つなみがきてからうみ
にでることができなくなりました。まいにちうみばかりみてい
て、とてもさびしそうです。

じいちゃん、おうちにはいろっ、ぼくはやさしくいいました。

郡山市立日和田小学校 六年 鈴木 里彩

母は私が生まれた時、私に「生まれてきてくれてありがとう。」
と言ったらしい。以前、そんな話をした。記憶にないけど言わ
れた時はとてもうれしかっただろうし、今言われても心がとき
めく。その言葉は母からの最初のプレゼント！

福島市立福島第二中学校 一年 佐々木 陽菜

三月十一日に地震があり、校庭に避難しました。この時私は
みんなとコワイよといっていました。一緒に避難した幼稚園の
先生に「今あなた達がしっかりしないでどうするの」と言われ、
私は強くなろうと思いました。

福島市立福島第二中学校 三年 武藤 幸大

僕はその言葉を福祉体験の時にお年寄りの方々から聞きました。

その言葉は、「あなたと出会えてうれしい。」という言葉です。
僕はその言葉を聞いた時、こんな自分でも他人から感謝される
人間と分かり、勇気がついた。



学校法人桜の聖母学院小学校 五年 糠澤 美羽

私のちよボラは「一日一善」です。毎日一つ良い事をする、
なんと一年で三六五も良い事ができるのです。

とても小さな行いかもしれませんが、ゴミ拾いや整理整頓な
ど、奉仕の心を大切にして実行していきたいです。

郡山市立小原田小学校 二年 菅野 太陽

ぼくは、なにをすればいいのかわかりません。おかあさんに
そうだんしました。ぼくは、ペットボトルのキャップをあつめ
ることにしました。そしてどこか出かけたりしたときにもって
かえることにしました。

郡山市立小原田小学校 五年 三瓶 理貴

ぼくは、節電のためにこまめに電気をけすようにしています。

ぼくは、ゲームをやりすぎて一日に二回じゅう電してるので一日一時間しかやりません。テレビもつけっぱなしなので、あまり見ないようにしています。

二本松市立原瀬小学校 四年 前田 健寿

ぼくは今、岳温泉の旅館にひなんしています。フロントの人がそうじをしている時に、手つだいをしています。フロントの人は、

「ありがとうございます」

と言ってくれます。

とってもうれしいので続けたいと思います。

本宮市立五百川小学校 五年 遠藤 栞

今日は、ひさい地のみなさんに、ペットボトルで、風りんを作りました。私は、ひさい地のみな様が「元気に笑顔に」なれるようにと願って、作りました。一生けん命作った風りんを、心を、明るくしてほしいです。

鏡石町立第二小学校 五年 小林 沙矢

去年の夏、初めてボランティアを体験した。一人暮らしの去年よりの家を訪問して、お話ししたりおり紙をおったり似顔絵をかいてあげたら、とても喜んでくれた。ボランティアって、こんなに簡単でみんながうれしくなることなんだ。

須賀川市立大東小学校 六年 江藤 もも

私がすばらしいと思う人は、お母さんです。

お母さんは、仕事帰りであつかれていても、私の話を笑顔で聞いてくれます。

私も、人の話をしっかり聞ける心に余裕のある人間になりましたと思います。

伊達市立掛田小学校 五年 大橋 怜実

いつも不思議に思うこと。お母さんの手でにぎったおにぎりは、やさしい味がして、いくつでも食べられる。

「ねえ、お母さん、とてもおいしいねえ。」

「それはね、ビタミン愛入りだからよ。」

お母さんは笑った。

伊達市立五十沢小学校 二年 引地 遙南

わたしがあんくんの後ろにならんだら、

「前に行っていいよ。」

と、ゆずってくれました。

わたしもあんくんのまねをして、

「どうぞ。」

と言ったらしい気もちになりました。

郡山市立安積第三小学校 六年 瀬川 真帆

私のひいおじいちゃんは、今八十二才です。どんなに足やこしが痛くても、毎日のように、畑や田んぼの仕事をがんばっています。

ひいおじいちゃんの育てて作ったお米は世界一おいしいです。そんな、ひいおじいちゃんを私はそんけいしています。

福島市立福島第一小学校 一年 永井 直矢

あべたくやくんは、あったかことばをつかってしゃべります。
ぼくはときどきちくちくことばをつかうときがあるから、つか
わないようになりたいです。あったかことばをつかうと、ほん
とにうれしいきもちになります。

鏡石町立第二小学校 一年 小幡 成明

まいにちいっしょにがつこうにいくおねえさんいつもありが
とう。ぼくがおそいときもまってくれます。ばすのりかたも
おしえてくれました。ぼくもみんなにやさしくしたいです。

郡山市立桃見台小学校 五年 小松 佑梨子

おばあちゃんのお手伝いを、いとこのなっちゃんはいやがらない。どんな時でも、いつも

「うん、いいよ。」

と、笑顔で返事をする。

聞いているわたしも、笑顔になる。

なっちゃんの返事が、みんなを笑顔にする。

須賀川市立柏城小学校 四年 新井 春菜

わたしのお母さんのすばらしいところは、わたしが、かくしごとやわるいことをしたりすると、顔を見ただけでわかるところです。話を聞いてくれたり、おこられたりするけどかいけつします。そんなお母さんが大好きです。

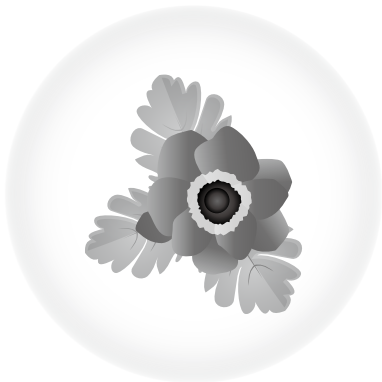
須賀川市立柏城小学校 六年 佐藤 優花

東日本大震災があって、断水してしまいました。でも、お母さんは、ちゃんと水をくみに行ったり、病院で仕事をしたりしていました。私も、大変なことがあっても、やることはやれる人になりたいと思いました。



須賀川市立大東小学校 六年 山口 来輝

ぼくは、今回の地しんで、多くの気づきがありました。それは、あたり前がいかに幸せかということです。水道から水が出る、温かい物を食べられる：自分がいかに日常にどん感だったかと気づいた。その気づきは宝物です。



猪苗代町立千里小学校 六年 半谷 昂大

「誕生日おめでとう。」避難する前の担任の先生から、届いた電話。

三月十一日に別れたきり会ってないけど、覚えていてくれてうれしかった。今までで一番、心に残る「おめでとう。」だった。ありがとう先生。がんばるよ。

福島市立福島第一小学校 二年 佐藤 倅

「けい元気ですか？」お母さんは、まい日ぼくにしつもんします。

そして、「パワー入れるよ。」と言ってギュツとだきしめます。ぼくは、てれるけどでもうれしくなって、元気がでます。お母さんありがとう。

須賀川市立大森小学校 六年 石井 亜依

「ありがとう。」

勇気を出して感謝の言葉を伝えてみると、

「どういたしまして。」

が、笑顔とともにかえってくる。

このやりとりが相手と私をつないで、いつのまにか親友になる。ありがとうってすてき。

会津若松市立小金井小学校 六年 佐藤 裕理

ぼくは、週二回、早めに登校し校門の前で朝のあいさつ運動に参加しています。大きな声で「おはようございます。」と声をかけると返事がもどってくる。あいさつは、一日元気に過ごせる温かい魔法の言葉だと思います。

檜枝岐村立檜枝岐小学校 六年 平野 生

「手伝うよ」と言われたら、
持っていた荷物も、心も、軽くなる。

「ありがとう」と言われたら、

心がポカポカ温かくなる。

「ごめんね」と言われたら、

相手を許せる気持ちになれる。

言葉のまほうはすごいな。

新地町立新地小学校 六年 志賀 月海

震災時、みんな不安な気持ちをかかえていた時、支援に来て
くれる方がたくさんいました。そんな時

「一人じゃないです。」

という言葉に私もみんなもホッとしたと思います。ありがとう
ございました。

福島市立福島第二中学校 二年 長谷部 咲子

私は仮設住宅へ支援物資を運ぶボランティアをしました。原発の問題で家を離れなければいけなかった人を前にどう接すれば良いか分かりませんでした。しかし一人の少女が私にこう言いました。

「ありがとう。」と。



鏡石町立第一小学校 六年 中島 李菜

東日本大震災の後、近所の水が止まっていることに気付いた。

私の家は井戸水なので大丈夫だった。母に許可をもらって、私は近所の家に一軒一軒、声をかけて回った。

「うち、水が出ますよ。」

みんな喜んでくれた。

福島市立福島第一小学校 三年 梅津 千載

ぼくのチョボラは、みんなが使うぞうきんをたたんで、きれいになることです。きれいにしておくと、みんなが気持ちよく朝のほうし活動に行くことができます。学校がきれいになるように、毎日つづけていきます。

二本松市立原瀬小学校 四年 庄司 彩樺

わたしは、かせつじゅうたぐにぐらしてゐます。わたしのボランティアは近くにおちてゐるゴミをひろふことです。ゴミをひろふときれいになります。その時は、目の前が、とても広く見えてうれしいです。

本宮市立五百川小学校 二年 佐藤 さくら

かせつじゅうたぐにぐんでゐるみなさん、元気ですか。

わたしたちは、元気になってくれるようにプランターにメツセージを書いたり、スタンプをおしたりしました。

お花を見てなぐんでぐださいね。

郡山市立桃見台小学校 六年 山辺 尚子

私は震災の時地域の方々と炊き出しをやりました。一日おにぎりや百個位握ったりカレーを作ったりしました。どんな料理でも笑顔で「おいしいよ」と言って食べてくれてその嬉しそうな顔を見たら私も嬉しくなりました。

須賀川市立稲田小学校 六年 有馬 未来

地域体育館に避難した。避難してきた人同士で、

「がんばりましょう。」

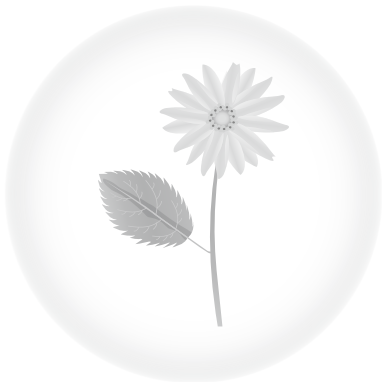
と声をかけ合い、協力して水をくむ手伝いをした。私もお年よりの方にゆたんぽを作って運んだ。小さなボランティアができた。

西郷村立熊倉小学校 五年 大迫 由奈

わたしは自転車に乗っている時一人のおばあちゃんを見かけた。道路の真ん中にいた。

「目が見えないの。」

わたしは自転車からおり、手をつなぎ、道案内をした。おばあちゃんは、「ありがとうね。」とにっこり笑った。



須賀川市立第三小学校 五年 五十嵐 海空

私は勇気が無いが、友達はちがう。ある日休み時間友達と遊んでいると、一年生の男の子がしゃがんでいた。私は知らないふりをしていたが友達はその子をたすけた。その瞬間私は、友達にあこがれた。

伊達市立掛田小学校 四年 渡邊 結斗

四年二組のすばらしいところ、それはあきらめない心。走る時、勉強する時、最後まであきらめない。そして、ゆう気。悪いことは悪いときちんと言えるゆう気。あきらめない心とゆう気はみんなの宝物。大事にしたいな。

二本松市立二本松南小学校 六年 菅野 杏実

私の友達に、涼帆ちゃんという子がいる。いつも笑顔で笑っている。それが涼帆ちゃんのすばらしいところ。つらいとき、涼帆ちゃんの笑顔を見ると、まほうをかけられたように、私も笑う。それっていいなと思う。

二本松市立原瀬小学校 二年 庄司 亜光

ななみさんのすばらしいところは、スリッパをそろえてくれるところです。

わたしがトイレにいった時、バラバラになっているスリッパをそろえていました。ななみさんは、とてもえらいです。

郡山市立桃見台小学校 三年 関根 望未

結子ちゃんはいつもニコニコ

大地くんは星座はかせ

あや愛ちゃんはだれにでもやさしい

こ太郎くんはいつも元気いっぱい

それがわたしにあったらいいなあ。

鏡石町立第二小学校 二年 佐藤 佑飛

ぼくのクラスには、かけるくんというともだちがいます。かけるくんは、本が大すきで二年生になって百さついじょうも読んでいます。すごいなあ。あたまの中にたくさんのお話のへやがあるんだろうなあと思いました。

鏡石町立第二小学校 四年 吉田 瑞姫

三月十一日、私がこわくてたまらなかった時、泣き出しそうになっていた時、

「だいじょうぶ。」

と、言ってくれた。顔を見たら、海翔くんだった。本当は、海翔くんだって、泣きたいくらいだったはずなのに。

白河市立釜子小学校 三年 徳富 麻紘

さくらちゃんは、いつもにこにこしている。元気もいい。さくらちゃんの言葉は、あったかい。おもいやりがある。だから、さくらちゃんがいるだけで安心する。こまった時にも元気のでる言葉をかけてくれる。いつまでも友達。

矢祭町立下関河内小学校 一年 尾亦 遥斗

ぼくたちがひかるくんをいじめてたら、せなちゃんがいじめ
ちゃだめだよっておしえてくれました。だから、

「ごめんね。」

といいました。なかよくなったよ。

猪苗代町立千里小学校 五年 草野 見佑

ふうちゃんのすばらしいところは

明るくて

やさしくて

言いたいことをいえて

相談も聞いてくれて

すばらしい。

みんなができることじゃないのにできて
すばらしい。

猪苗代町立千里小学校 六年 渡部 遥

わたしの祖母は、あたりまえの事をしても、

「ありがとう。」

と、言います。「ありがとう。」は、はずかしい時があったりするけれど祖母は、だれにでも言います。わたしも祖母をみならって言えるようにしたいです。

福島市立蓬萊中学校 一年 渡邊 美香

私の尊敬する人は、となりの家にすむ、おじいちゃんだ。けがをした動物の手当てをしているやさしいおじいちゃん。「命があるものは大切にしなきゃだめだよ。」と私におしえてくれました。私も命ある物大切にしたいです。

矢祭町立石井小学校 六年 深谷 龍河

「龍河くんがなくてさみしいよ。はやく良くなってね。」

これは、ぼくが入院してしまったときにもらった手紙に書いてあった言葉だ。

自分を必要としてくれていると感じた。

友達がいて本当に良かったと思う。

福島市立杉妻小学校 六年 大竹 るりか

「ありがとう」

一言だけど、言われてうれしい言葉。

「ごめんね」

一言だけど、すごく大事な言葉。

一言でも大切な言葉。

はずかしがらずに言えればいいな。

学校法人桜の聖母学院小学校 三年 橋本 結

「おうちに生まれてきてくれてありがとう。」

お母さんは、よくわたしをだきしめて、この言葉を言ってくれます。
この言葉を聞くと心があたたかくなってとってもあんなにできます。

「わたしも生まれてきてしあわせです。」

郡山市立片平小学校 六年 佐藤 玲依

弟にはじめて言われた、「ありがとう。」

改めて気づいた。「ありがとう」のあたたかさ。

言った弟もうれしそう。

二才でも、わかるんだ。

私もこれからいしきして、ふやしていこう「ありがとう。」

郡山市立富田西小学校 四年 水竹 純望

三月に郡山へもどる時に、埼玉の小学校の友達からはげましの手紙をもらった。

特に心にのこったのは、「今までで一番の友達、あずみちゃんのがおで福島はきつとかがやくよ」と書いてくれたことです。私、えがおでがんばろう。

須賀川市立大森小学校 五年 関根 有沙

昼休み一人で遊んでいる時に、言われた。

「いっしょに遊ぼう。」

心がポカポカした。とてもうれしかった。

私も、その人みたいに、言っておげたいと思う。

私がもらった心のポカポカ、喜びを、みんなにも、分けてあげたい。

白河市立信夫第一小学校 六年 大竹 光穂

「泣いていいよ。その数だけ強くなれるから。」

それは私が泣いていた時に友達のお母さんがかけてくれた言葉だった。

でもそれは本当の事かもしれない。

今の私は昔の私にくらべればとても強くなっている気がするから。

福島市立福島第一中学校 二年 仲江 悠平

東日本大震災の時の事。水が止まってしまいました。そしていつも、近くの公園で水をもらいました。

その帰りに見つけた看板には、「こまった時はおたがいさま、水をあげます。」と書いてありました。その言葉がとてもうれしい。

福島県立白河実業高等学校 二年 鈴木 麻友

ごめんね よりありがとうを

さようなら よりまた明日を

頑張れ より頑張ろうを

大嫌い より好きを

言葉があるから

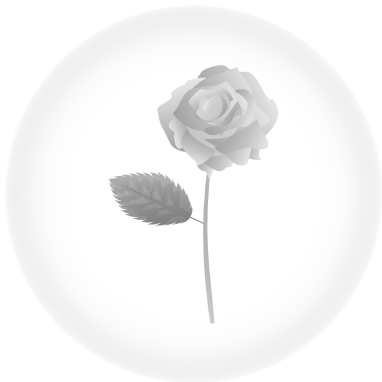
嬉しくなれる

強くなれる

優しくなれる

言葉を大切に

「あたたかい言葉」を大切に



天栄村立広戸小学校 六年 戸川 大文

春には花がさいて
夏にはセミが鳴いて
秋にはもみじの山で
冬にはまっ白な雪が
ふってくる

百年後の未来も
ずっとずっとこの景色
がみられる福島で
ありますように

福島市立福島第一小学校 四年 伊藤 瑛士

福島はひろいよ
山も海もあるよ
夏は暑くて、冬はいっぱい雪がふるよ
大きな地震でパズルがばらばらになっ
ちやったよ
みんなで福島のパズルをなおそうよ
ぼくの大好きな福島に

福島市立福島第四小学校 六年 宮林 美保

大震災から二年後の去年。テレビに、避難する前の小学校の同級生が出ていた。遠足の集合写真を胸にかかえて……テレビから目が離せなかった。

また会いたいな、友達に。また住みたいな、故郷に。
これがわたしの夢。

学校法人桜の聖母学院小学校 五年 佐藤 桃香

わたしは、助産師になるのが夢です。赤ちゃんが生まれると
いうことは、とてもめでたいことです。家族も周りの方々も喜
んでくれます。そうして新しい命が福島に誕生し、赤ちゃんの
笑顔で多くの幸せをふやしたいです。

本宮市立五百川小学校 六年 山崎 惠理香

私の夢は管理栄養士になって、地元の食材を使った料理を考えることです。今は、地元の食材で食べられないものもあるけれど、いつか、食べられるようになった時、地元の食材を使いおいしい料理を考えたいです。

郡山市立日和田小学校 五年 福本 好晟

津軽三味線

あの力強い音が ぼくの心に鳴りひびく

そのひびきをぼくが福島みんなの心にひびかせたい！そして感動と元気をあたえたい

ぼくの夢は福島と共に大きく前へ進んでいく

郡山市立日和田小学校 六年 二階堂 瑠那

私の夢は『科学者。』

自然のことを研究したいと思ってる。

虫のこと、草のこと、

花のこと、木のこと、

そして、放射能のこと。

これからの未来は不安がいっぱいだけど、

一生懸命がんばろう。

郡山市立片平小学校 五年 酒井 智哉

じいちゃんのお米は、とてもおいしい。自慢のお米。だけど、震災後に作ったお米は、心配で県外産のお米をとりよせて、食べていた。おいしく安心して食べられるお米を作ってね。ぼくも手伝うからね。

郡山市立桃見台小学校 二年 櫻田 千尋

わたしのおとうさんは、しゅみでパンをつくれます。わたしもてつだってたのしいです。大きくなったら、ふくしまで、おとうさんとパンやさんをしたいです。おいしくてあんしんしてたべれるパンをつくりたいです。

郡山市立富田東小学校 四年 高野 佑菜

わたしのゆめは、小説家になり、福島県を題材にして、福島のすばらしさを伝えていきたいです。たくさんの人に福島に行ってみたい、すんでみたいと思われるような本を作り福島県をアピールしていきたいと思います。

郡山市立富田東小学校 四年 千葉 彩乃

みらいの福島は天国よりもあかるくて、世界で一番笑顔な国。
みんな、みんな幸せで、悲しいことがあっても、のりこえる
—。

そーんな、本当の「福」の「島」になってほしい。それでこ
そ、「福島」だから。

郡山市立富田西小学校 四年 安田 結人

ぼくの夢は、農ぎょうをすることです。なぜかと言うと、東
日本大しんさいで食料が少なくなってしまったからです。みん
なが、安心して、食べれるようにお米や野菜を作りたいです。
お父さんといっしょにがんばります。

須賀川市立第一小学校 五年 武藤 潤哉

東日本大しん災から約二年。ニュースなどを見て、もうこれはだめだとばかり思っていました。しかしなお、人々は協力し、助け合っていました。ぼくもそんなおとなになりたいと思いました。それがぼくの夢です。

須賀川市立大森小学校 五年 関根 愛理

私は、げき団に入っているいろいろな役を演じることが夢です。げき団に入ったら、福島県内のいろいろな所へ行って、みんなの笑顔が見たいです。

福島の人を笑顔でいっぱいにするのが私の夢なのです。

玉川村立川辺小学校 四年 曲山 佳那

大きなきずを

負った福島

でもその一方で

希望を手に入れた

福島がある

どんなこんなんでも

どんなきずを

負ってでも

福島は明日へ

進みつつける

矢祭町立石井小学校 五年 菊池 奏穂

私の夢はデザイナー。その夢とともに福島の未来をずっとみていたい。

いつかデザイナーになって福島の未来をデザインしていきたい。人々の服や森や家や町を。私は福島の未来をデザインする。

会津若松市立川南小学校 四年 栗城 明梨

わたしの夢

人の役に立ちたい

震災 原発事故

一生忘れない

多くの人がなくなった

天国で元気にしてる？

わたしは人がこまっている時

その人にそっと

よりそってあげたい

学校法人福島成蹊学園福島成蹊中学校 一年

石黒 美結

自然豊で自然を大切にする街

人のつながりを大切にする街

自然と一緒に暮らせる街

皆が楽しく健やかに過ごせる街

全部当たり前だけど難しいこと

だから皆でちからを合わせる

まずは自分から

動き出そう

学校法人福島成蹊学園福島成蹊中学校 一年

渡邊 紗羽

福島で生まれ
福島で結婚し
福島で赤ちゃんを産み
福島で年をとり
福島で病気になり
福島で死ぬ
私のおばあちゃんも
お母さんも
子どもも
孫も
ずっと
ずっと
ずっと
福島で

いわき市立湯本第一中学校 二年 高田 晴花

私の夢は早く南相馬に帰ることです。こちらにいくら慣れようとあちらに戻りたいという気持ちはまったく変わりません。日に日に気持ちはましていきいます。私はあちらに一日でも早くあちらに戻って友達にいたいのです。

いわき市立湯本第一中学校 三年 西山 葉南

あの日から、フクシマと呼ばれ、人は住めなくなり、桃や魚が売れなくなってしまった福島。

でも、地震を体験した私たちは、この出来事を後世にありのまま伝えることができる。

それが、被災者の使命であり、特権。

福島県立福島高等学校 二年 日下 輔

僕らが叶える

福島復興という県民の夢を

僕らがつくる

みんなが笑顔でいる

福島の未来を

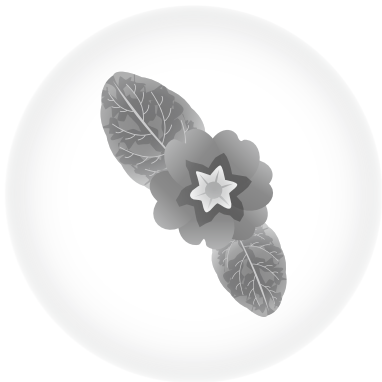
僕らになってやる

福島復興の立役者に

今、力を見せつける時

福島県立郡山北工業高等学校 三年 佐藤 聖

私は、委員会活動を通して、多くの人に支えられていることに気づいた。必死に誰かを支えている人たちは、とてもカッコよく輝いていた。私も誰かを全力で支えられる役に立つ人間になりたい。これが私の夢だ。



天栄村立牧本小学校 一年 杉村 和奏

りおちゃんは、おえかきがじょうずです。

ひなたくんは、けいさんがはやいです。

まやちゃんは、かけっこがはやいです。

ゆうやくんは、たたかいごっこがすごいです。

わたしは、

おおきいこえであいさつがとくいです。

福島市立福島第一小学校 二年 梅津 千莉

たかはしゆうなさんが、わたしのハンカチをひろってくれました。

「ありがとう。」と言うと「どういたしまして。」と言ってわらってくれました。気持ちがフワッとかるくなって、もっとゆうなさんが大すきになりました。

郡山市立安積第三小学校 五年 橋本 春那

今、一番仲のいい友達とろう下を歩いていたら、低学年の子が、困っていました。私は知らない子だったのでむしして、いこうとしたら、友達がやさしくその子に声をかけていました。友達にみとれていました。

郡山市立富田西小学校 一年 尾辻 陽菜

しょうがっこうにはいつてはじめてのきょうしつ、はじめてのともだち、はじめてがいっぱいでどきどきだったけど、おともだちがいてくれたからいつのまにかにこにこになった。やっぱりともだちっていいね。

須賀川市立西袋第二小学校 六年 鈴木 理代佳

私の友達で、いわきの海付近に住んでいる男の子がいます。
震災が起きた後も一切悲しい顔を見せずに、いつも笑顔です。
大切な物、大切な人を、たくさん失っても、いつも笑顔ですば
らしいと思った。

須賀川市立柏城小学校 四年 橋本 卓

はるがくんはぼくが休んだ時、先生にもいわれてないのに
シューズをとどけてくれた。

お母さんに、

「たくの事おねがいします。」と言って帰って行った。

ぼくもはるがくんがかぜをひいた時、同じ事をできるといいな
と思った。

鏡石町立第一小学校 五年 関根 愛子

わたしは走るのが苦手。むしろきらい。そんなわたしに、さりなちゃんが言った。「一緒に陸上をやろう。」さりなちゃんみたいになれたらいいなあと思いつながら走っていたら、まあまあ好きに変わってきた。不思議。

天栄村立牧本小学校 四年 猪越 魁人

やさしい友だち
ありがとう
さそってくれて
うれしかったよ
たすけてくれて
なみだがポロリ
はげましてくれて
力がでたよ
ぼくもなりたい
そんな友だちみたいに

矢吹町立三神小学校 六年 関根 啓太

渡邊裕貴君はすばらしい。

なぜなら、いつも進んでトイレのスリッパを並べたりしているし、水道の蛇口を下に直したりしているから。だからぼくも、そんな裕貴君のようなやさしい人になりたいです。

矢祭町立関岡小学校 三年 藤井 俊輔

六年生のはやとくんは、とってもあいさつの声が大きくて、ぼくの学校のあいさつ名人だ。

元気があるから、あんな風に大きな声で気持ちよくできるのかなあ。ぼくも、朝ご飯をしっかり食べ、はやとくんのようになるぞ。

会津若松市立川南小学校 五年 鈴木 健仁

ぼくたちの同級生は十三人です。女子が四人で、男子が九人です。よく手を上げて発言する人や、やさしい人や、よくけんかする人、いろんな友達がいいます。

この十三人で一緒にいられるのは楽しいです。ずっと友達でいたい。

新地町立新地小学校 三年 橘 翼

ありがとう、やさしいね、こたろうくんに言われた時、ぼくはとてもうれしくなりました。ちょっとかばんをとどけただけなのに。

こたろうくんのよいところは、感しゃの言葉をきちんと言えるところだと思います。

いわき市立湯本第一中学校(現檜葉町立檜葉中学校) 二年 名兒耶 雅

友達がいるすばらしさを一番知るのが、悩んでいる時です。
悩んでいる時に友達が聞いてくれ、そばにいてくれて一緒に笑
う時があれば、一緒に泣く時もあったて……。そこまでしてくれ
るのは友達だけ。友達は一生の宝物です。

いわき市立植田中学校 三年 門馬 英絵

私を理解してくれる、それが私の友達のすばらしいところ。
話下手な私の言葉を最後まで受け取ってくれて、私の気持ちを
しっかりと考えてくれる。

なかなか会えないけれどこの友達とこれからも一緒にいたい。

学校法人松韻学園福島高等学校 二年 西方 宏光

「やってもできないやつだな、お前は。」そう言われても一生懸命にがんばるその姿が僕は好き。

一歩でもいい、半歩でもいい。いつかはその一歩が大きな一歩になるだろう。最後までがんばれ、あきらめずに。



福島県立郡山商業高等学校 二年 中村 啓南

東日本大震災で、人のあたたかさ、絆の太さに気づいた。自分にもできることはないのかと考え、震災後、避難所となっていた中学校へ行き、食べ物や毛布などを持っていったりした。人の役に立てるのが嬉しかった。

福島県立郡山商業高等学校 三年 福田 ひかる

私が震災を体験した際に一つだけ安心していたことがある。

それは日本の治安の良さだ。

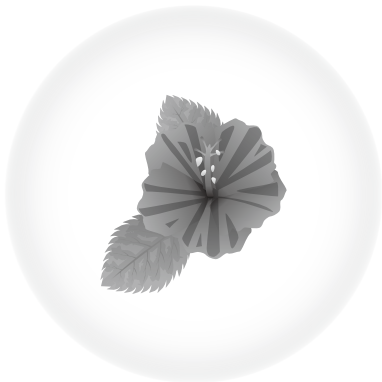
あまりにも大きな災害を前にしても、人としての理性と常識をもって行動している証だ。

私もこの素晴らしい社会の一員でありたい。

福島県立郡山商業高等学校 一年 安倍 卓弥

私は東日本大震災が起こってから数日間、学校の避難所に暮らすことになりました。

私は、そこで生活している人同士が協力し合っている姿を見て、感動し、自分もボランティアとして協力しました。



福島市立福島第一中学校 一年 吉原 みさき

私は卒業式で伴奏ができなかった。

本番はCDで歌った。

でも、だれも私を責めなかった。

「二十歳の時に、またみんなで歌おう。」

そう言ってくれた。

「人ってあったかいな」

そう思った。

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校 一年 小松 紗綾

私が落ち込んでいる時、貴方が言ってくれたこと。

「空を自由に飛ぶトリには、羽がある。一歩踏み出す足ならあるだろう」

止まったままの私に言って励ましてくれた。

そんな貴方は私の自慢の親友。

いつも本当にありがとう。

福島市立福島第一小学校 六年 菅野 さくら

友達とけんかをしてしまった。夜、そのことを何度も思い出した。次の日、思いきって、「ごめんね。」と言った。すると、「大丈夫だよ。」と友達は答えてくれた。心があつたかくなった。やっぱり、友達っていいな。

須賀川市立稲田小学校 六年 水野 沙紀

「一人でかかえこまなくていいんだよ。」

泣きそうな私に、男の子の友達がかけてくれた。

なんで気づいたの。

心があたたかくなるのがわかった。だんだん涙がでてきた。

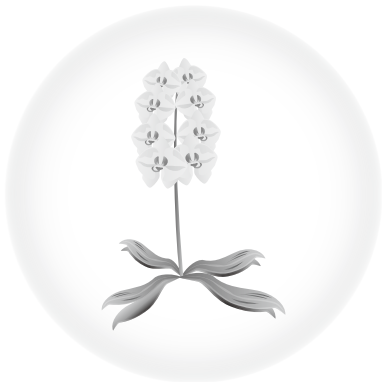
素直にうれしかったし、心が軽くなった。

猪苗代町立猪苗代小学校 二年 金作 一輝

ぼくがいつもあいさつをするあくつさんのおばあさんは、

「にっこして、めんこいな、おりこうさん」

と、ほっぺをなでてくれます。うれしくなります。あいさつは
これからも、しようとおもいます。



郡山市立富田東小学校 二年 志田 柚季

わたしが生まれたのは、いわき市。

かい水よくをしてあそんだよ。

喜多方にすんでいるときは、大きなかくらをつくったよ。

今は郡山で、ザリガニつりや、かえるとり。

わたしの大きくなしぜんを、まもりたいな。

いわき市立草野中学校 二年 榊原 真希

昔のわたしの夢

それは双葉で生きることだった

今の夢

それは双葉のわたしたちの

故里に役立つこと

きつと実現させよう

わたしのため

双葉のため

皆のため

故郷のため

福島市立福島第一小学校 六年 新妻 杏里

浪江町からひなんしてきた。先生や友達、何をしているのだろう。でも、私は信じている。この空の下、心と心はちゃんとつながっているって。いつか必ず、あのころの仲間と笑顔でもう一度会える日が来るってことを。

郡山市立日和田小学校 六年 澤井 響姫

私ののだむ福島のみらいは、放射線を気にせず、農家の人たちが畑仕事をしたり、子どもたちがおもいきり外遊びをしたりすることです。一番にのだむ福島のみらいは、みんなが笑顔で幸せにすごせる福島のみらいです。

郡山市立富田東小学校 三年 丸野 和士

ぼくのゆめは、ピアニストです。今、ぼくは、ブルグミュラーの「すなおな心」をひいています。

福島のみらいも、この曲のようになればいいな。え顔ですなおな心をもつ元気な福島の子どもがいっぱいな。

郡山市立大島小学校 六年 西川 一真

あの時助けてくれたのは小さなラジオでした。震災から三年たった時、久しぶりにラジオから流れた話。どこか心が温まりました。将来、あの時の様な事が起きたら、今度はぼくがラジオで人を幸せにする番だと思います。

須賀川市立第一小学校 五年 円谷 浩太

ぼくは、サクラを植える。

福島がサクラでいっぱい福の島になるように、

サクラを植える。

千本植えるまで、サクラを植える。

次の時代の人へがおになるように、

ぼくは、サクラを植え続けたい。

須賀川市立第二小学校 一年 児玉 達哉

ぼくのゆめはけいさつかん

こどもたちをまもる

おとしよりをまもる

みんなをまもる

ふくしまをまもる

えがおをまもるけいさつかん

須賀川市立第三小学校 六年 廣田 美紀

私のささやかな夢を聞いて下さい。それは「みんなの役に立つ」ことです。私ってすごく勉強ができるわけでもないし、運動もあまり得意ではありません。そんな私でも、人から「ありがとう。」って言われてみたいんです。

須賀川市立阿武隈小学校 六年 橋本 大輝

ぼくの夢は、祖父と祖母の田畑を受け継いでいくことです。放射線の問題もあって、大変だけれども、祖父や祖母の努力を知っているぼくが、米を作り、きゅうりを育てて、福島の野菜を届けていきたいです。

石川町立山形小学校 六年 高原 彩乃

私の夢は、花屋さん。花は、見てるだけでリラックスできる。リラックスすることによって心から笑顔になる。花には、みんなを笑顔にする魔法がある。私は花屋さんになり、たくさんの人に笑顔の花を咲かせたい。故郷に笑顔の花を。

矢祭町立関岡小学校 五年 石井 愛来

とてもこわい神様のいたずらから三年たつ。地しんはこわいけれど、私は家族や友達がいる。あたたかい心がそばにある。今度は、私がそれらを失った人達にあたたかいプレゼントを送る番。福島に笑顔の花が満開に咲くように。

福島市立福島第四小学校 六年 片平 健介

「友達っていいな。」

ぼくがうまくできなくてあせっている時アドバイスをくれる。

「友達っていいな。」

本気になってぼくの話聞いてくれる。

「友達っていいな。」

ぼくもそう言われているといいな。

郡山市立富田東小学校 六年 鎌田 有咲

震災でにげる場所がなく困っていた時でした。私の母の友達
が、

「何も気にせず家族で私の家においで」

と言ってくれました。母が一度しか会った事がないのに、助けてくれたお友達に私はすばらしさを感じました。

福島市立福島第一中学校 三年 佐藤 綾音

クラスの子にいじめられていたある日、私にそっと声をかけてくれたお友達がいました。

「…大丈夫？」

その一言から、私は前を向きはじめました。優しく、勇気を持っている友達。私もそんな人になりたいです。



福島県立郡山商業高等学校 二年 重富 菜咲

「大丈夫ですか？何かお手伝いします。」余震が続く中、近所の高校の野球部が一軒一軒声を掛けていました。それがきっかけで私はその高校に入学しました。二年になった今、地域の人役に立てる人になりたいです。



郡山市立富田東小学校 三年 石川 一平

ぼくは、家でベルマークとプルトップとペットボトルの
キャップをあつめています。

小学生になるまでは、ぜんぶすてていました。

ワクチンや車いすや学ようひんになることを知って、毎日一
こずつあつめています。

いわき市立草野小学校 二年 上遠野 旦

ぼくは、たまにろう人ホームにしようぎをさしに行きます。
八十才のおじいちゃんと七才のぼくが、しんけんにたたかうの
がおもしろいです。

おじいちゃんが、たのしいと言ってくれるからまた行きたい
です。

福島市立福島第一小学校 六年 佐久間 理宇

ぼくたちの学校では、朝ボランティア活動があつて、ぼくたちの班の初めての活動はあいさつ運動だった。最初はみんな通りすぎる。

でも一人だけ笑顔でかえしてくれた。

もっと元気に大きな声であいさつがしたくなった。

二本松市立原瀬小学校 五年 大内 蘭帆

私にできるボランティアは一つ。それは学校でやっている朝のチヨボラ。毎日、ずっと休まない。

学校がきれいになり、みんなが気持ちよく生活できれば、私はそれでいい。

そんなボランティアをしたい。

福島市立松陵中学校 一年 佐々木 優奈

東日本大震災で、近くの体育館に避難していた人がたくさんいました。私の祖母はボランティアに行き、私もときどき連れて行ってもらいました。

歌ったり、料理したり、ただそれだけなのに笑ってくれる人がたくさんいました。

いわき市立藤間中学校 一年 長瀬 和真

ごみおき場でごみが散乱していた。ぼくは迷ったが気になり、片付けた。きれいになった時の気分は良く、考えて行動できた事が嬉しかった。

募金やエコキャップの回収など、自分ができる事に参加したい。

鏡石町立第一小学校 二年 大野 伸貴

ホタルをみつけたよ。

ホタルは水のきれいなところにしかすめないんだって。

おじいちゃんが教えてくれた。

きれいな水が分かるホタルはすごいな。

ぼくはホタルがすめる田んぼやいけ、川をふやしたいと思ったよ。

学校法人桜の聖母学院小学校 六年 齋藤 昂

ぼくは、東日本大震災をうけて、世界の色々な人々に支援をして頂き、ネパール大震災がおこったらすぐにば金をしました。一日でも早く、ネパールの人々が、普通の生活にもどれるように、これからもば金をしていききたいと思います。

郡山市立日和田小学校 三年 安齋 斗偉

東日本大しんさいの時、ぼくは四才でしたが、はっきりと大地しんの事をおぼえています。

そして、その時パパとやくそくした事があります。「この地しんをわすれない。命を大切にする。」です。

それが、ぼくが守る事です。

郡山市立富田東小学校 三年 志田 柚季

ウォーキング大会にさんかした。川ぞいの道は、け色や空気がきれいで気もちよかった。

しばらく歩くと、ごみぶくろをもっている人たちに気づいた。歩きながらごみをひろっていたんだ。

次は、わたしの手にもごみぶくろ。

いわき市立草野小学校 一年 坂本 琉果

みんなのいのちはたいせつです。なぜなら、しんさいのとき
まもられたいのちだからです。

だから、わたしはまたしんさいがおきたときは、パパやママ
にたすけられたように、こんどはわたしがだれかをたすけたい
です。

福島市立福島第一中学校 一年 井澤 颯汰

失った物は多く、得たものは少ない。では、得たものとは何
だろう。「思いやり」や「絆」である。

今は私たちができることは、失った物ばかり考えるのではな
く得たものをなくさないように一歩ずつ歩いていくことであ
る。

福島市立松陵中学校 三年 大河原 莉杏

私が世界のためにできる事は、募金です。

私は震災を経験し、その時に、日本人でない貧しい暮らしをしている家族が一日働き受け取ったお金を募金してくれた事を知り、それ以来、募金箱があると必ず募金をしています。

須賀川市立第二中学校 三年 善方 詩乃

先日、ミャンマーの無医村で巡回医療をする女性の番組を見た。私はその女性を尊敬し、同じ日本人として嬉しく思った。

私が世界のためにできることはとても少ない。だから世界について知ることから始めたいと思った。

学校法人桜の聖母学院小学校 五年 川村 瑛音

あの人は、いつもテストで百点だ。

でもいいの。私は私。

あの子は、ドッジボールが上手。

でもいいの。私は私。

この言葉に、何度はげまされたことか。

でもいいの。私は私。

明日もがんばろう。

福島市立福島第一小学校 五年 渡辺 舞桜

「ピ。ピッ。」「ピ。ピッ。」

巣から落ちたひなが、必死に親鳥を探している。

しばらくしたら、どこからか、親鳥が飛んできた。やさしく

そっとひなを羽でつつみこんだ。

よかったー。

心がほっとあたたまった。

福島市立庭坂小学校 六年 山岸 しずく

「あなたならできる。」

これは、お母さんが私にいつてくれた言葉だ。

私はとてもうれしかった。

私は、やればできるんだ。

つらくてくじけそうな時、悲しくてなみだが止まらない時、

「あなたならできる。」

を支えに前に進みたい。

郡山市立片平小学校 六年 和泉 羽奏

ある時、母がつかれて帰ってきました。帰ってくると自分に塩をかけてと言いました。

「今日、おばあちゃんがなくなったんだ。そのおばあちゃん笑顔してくれる人でね。」と、言い、私は心で思いました。

私も看護婦になりたい。

鏡石町立第一小学校 五年 渡邊 虎雅

「がんばれば自分にかえってくる。」

ぼくが感動した言葉です。

今まであまり長続きしたことはないけど、陸上だけは続けてきました。

そして、勝ち取った県大会。

ああ、やっぱりがんばれば、自分にかえってくるんだな。

福島市立福島第一中学校 一年 阿部 天太朗

東日本大震災の日を僕ははっきりと覚えています。あの時の波はたくさんものを奪って行った。家、物、思い出、お金、たくさんさんの命…。

しかし、人々の「生きる希望。」「助け合う心。」は波でも奪うことは出来なかった。

西郷村立西郷第一中学校 一年 菅野 華蓮

「お前は強い。」

母からももらった一言が私に勇気をくれました。

何もかもうまくいかない、そんなとき、いつも、心強いみかたでいてくれる、自分の背中をおしてくれる、時にきびしく、そしてやさしい母が大好きです。



あれから五年

日本赤十字社社長賞受賞者の思い

二〇一二年度受賞

須賀川市立小塩江中学校 二年（現高校三年） 竹内 梢恵

三年前の十四時四十六分。地球の裏側の人々の黙祷する姿とは対照的に、その時間を気にすることなく平然と道を行く日本人の姿に私は同じ日本人として情けなさを感じた。私は今、高校の演劇部に所属している。福島の高校演劇のテーマはほとんどが震災のことだ。苦しみと闘っている人々が大勢いることを忘れないで欲しいというメッセージがある。私は一表現者として震災で得た沢山の教訓を人々の記憶に焼き付けたいと思っている。

二〇一三年度受賞

福島市立福島第一中学校 三年（現高校三年） 宇野 翔

これまで、小学校の卒業式が行えなかったという事実は、単なる違和感や不安感の焦点でしかなかった。それが、中学校で初めての卒業式を迎えて、現在と当時とを前向きに對比する材料として考えることができるようになった。

かつての当たり前の生活を取り戻すことが目に大きく映りがちだが、かつて当たり前だった認識を変えていくことも大切だと思う。

五年の間で、自分も大きく変わったからこそ、そう思う。

二〇一四年度受賞

郡山市立富田東小学校 二年（現三年） 志田 柚季

私は、浜通り、会津地方、中通りで色々な行事や自ぜんの中で遊びを楽しみ、気候のちがいにおどろき、体けんした事を一〇〇文字にまとめました。

残念ながら、家のとなりに広がっていた田んぼは住宅地になり、大好きなザリガニつりやかえるとりをした事も、楽しい思い出の一つになってしまいました。身近な風景の移り変わりを見て、あらためて、自ぜんの大切さを実感しています。

これからも、かんきょうをよごさないようにど力していきたいです。

二〇一五年度受賞

双葉町立双葉北小学校 五年（現六年） 渡部 未空

私は、しん災の後、新潟県や山形県、いわき市など、いろいろなどところに行きました。時々双葉のことを思い出してさみしい時もありました。今は、双葉町の学校に戻り、毎日楽しく元気に暮らしています。しん災の経験は、つらかったこともあったけど、このことがなかったら、新しい友達や優しい人たちに会うことはなかったと思います。だから、これからも、何があっても暗くならずに笑顔でいたいです。

詩・一〇〇文字提案作品募集にかかる

指導者の思い

福島市立庭坂小学校 今出 裕之

本校では昨年度から全校生で参加させていただいております。子どもたちにとって詩や一〇〇文字で自分の考えを書くことは、作文と違って字数的にも考えやすいようです。また、テーマも取り組みやすい内容であるため、書き始めてから短時間で仕上げることができました。

子どもたちの作品を読んでもみると、目頭が熱くなる作品がたくさんありました。子どもたちは人との出会いから自分なりに考え、行動に移していることが分かりました。これは、青少年赤十字の「気づき・考え実行する」という考えにつながっているのではないかと思います。この「詩・一〇〇文字提案」への参加を通して、「気づき・考え・実行する」ことができる子どもたちをこれからも育てていきたいと思っています。

福島市立松陵中学校 永山 志穂

夏の青少年赤十字福島県指導者講習会に参加して、「何か子どもたちに地域のことを考えさせたい」と思っていたところ、回覧で詩・一〇〇文字提案のことを知りました。夏休み中に知り、八月中という提出期限だったので、指導という指導は正直できませんでした。地域交流活動での体験や今までのボランティア活動のことを振り返らせながら書かせました。「全員が書くの?」「作文嫌だー!」と最初は言った子どもたちですが、一〇〇文字という手軽さからすんなり書ける子が多かったように思います。

私のクラスには、自分の気持ちをうまく言葉にできない子がいます。その子が授業の時間内にしっかりと自分の考えを書けたということが強く印象に残っています。それくらい題材が身近なもので、普段は何も考えずに生活しているように見える子ども、福島、震災、地域、自

然、いのちのことをしっかりと自分なりに考えているのだと思いました。一〇〇文字作文に取り組み、生徒が自分の思いを素直に表現できる機会をいただけて良かったです。ありがとうございます。

伊達市立堰本小学校 大橋 淳子

本校の児童は祖父母と一緒に生活している子が多く、日頃よりそのつながりが深いと感じています。

今回受賞した児童も祖父母の隣りに住んでおり、一緒に遊んだり手伝いをしたりする機会が多いと聞いています。祖父が様々な野菜を作って児童の家へ届けてくれ、新鮮でおいしい野菜が食卓にのることが多いようです。野菜作りをする祖父の姿を目にすることも多かったと思います。心をこめて作った野菜からは祖父の愛情が感じられますし、児童の祖父への感謝の気持ちが伝わってきました。届けられるものがあるいろいろな野菜だけでなく「笑顔」というところが温かくすてきだと思います。

毎週土・日曜日の宿題の作文があるため、家庭での様子が分かりコミュニケーションを図るための材料にもなっています。

本学級の児童の様子を見てみると、偏食が多く、とくに野菜を食べない(苦手な)子が目立ちます。震災(放射線)の影響で野菜を食べさせなかったという保護者もいます。私自身も最近まで地元の野菜、県内の野菜を口にするのに抵抗がありました。そんな中で、安全性が確認され現在に至っているということは喜ぶべきことです。

食べ物への感謝、作る人への感謝、生きていることへの感謝を子ども達と考える機会を大切にしていきたいと思っています。

未来を担う子ども達の違いや感動、夢や希望をこれからも素直に表現できるように関わっていきます。

郡山市立片平小学校 中野 幸恵

「詩・一〇〇文字提案」は、子ども達が自分の夢や未来、家族についてじっくりと考えることのできる、とても良い機会になっています。特に、今回受賞した子ども们的場合は、普段なかなか家族にも将来の夢について話すことはなかったようですが、作品を読んだ母は、自分と同じ職業を目指そうとしている子ども達の思いを初めて知ったようで、

嬉しくて涙ぐんでいました。家族の絆も深める「詩・一〇〇文字提案」に取組み、とても良かったです。ありがとうございました。

郡山市立桃見台小学校 長瀬 由美子

この度は、本校児童の作品を取り上げていただきまして、ありがとうございました。

今回の「詩・一〇〇文字提案」の作品づくりにおきましては、低学年の児童ということもあり、ご家庭に本作品出品の趣旨を申し上げ、お子さんと対話しながら書かせてもらいました。学校では、子どもたちに何について書くかを事前に選ばせました。その際に、命の大切さ、夢を持つことの意味、ボランティア精神についてなど、子どもに分かる範囲で触れ、この作品を書くことで「生きているっていいな」「人とつながるっていいな」という思いを感じ取れるとうれしいという私の願いを伝えました。

本学級では、全児童二十一名の内、十九名の児童が作文を書きました。中には二つのテーマで書いてきた子どももいました。実際、書いてきた詩や作文を読みながら、学校の出来事だけでなく、担任の知らない家庭での出来事や姿、思いが文章から垣間見え、胸が熱くなったりほほえましく思ったりしました。

小学生の子どもたちは、一年一年の成長が大きいものですので、その年々に感じることや考えが成長とともに変化して行くと思われまます。毎年この「詩・一〇〇文字提案」作品を書くことで、命や愛について見つめ直す良い機会になりますし、子どもたちの心の成長を感じることができると思います。

言葉にすることで自分の思いや夢がはっきりします。感動したことを文章にすると、その気持ちがいよみがえってまた幸せになれます。文章を書くことは、心をじっくりと耕すことができるとても良い手段だと考えております。これからもぜひ、子どもたちがこの作品づくりを続けて、自分の心と対話して欲しいと思います。また、他の友達作品を読んで共感することで、さらに大きく心を成長させて欲しいと願っています。

いわき市立草野小学校 新妻 徳子

赤十字の精神に基づく、だれにでもある心のやさしさや思いやりを、いろいろな人にあげたり、いただいたことへの感謝の気持ちを持ったりしてもらいたいという思いを持っています。そして、その時の気持ちを文章に表現し、振り返ることで、更に人への思いやりの心が高まって欲しいという願いもあります。

子どもたちは、日頃の生活の中で感じた事や体験したことを、思い思いに書き表していました。特別な事柄ではなく身近な所から心に残ったことを文章に表現しており、低学年も無理なく取り組むことができました。

日頃の生活の中での事柄を思い起こさせ、学校内外を問わず特に心に残ったことを中心に取り組ませました。また、学年に応じて各担任の先生にご指導をお願いしました。指導にあたっては、子どもたちの思いや伝えたい事を第一に考えた指導を行いました。

いわき市立藤間中学校 山上 ひつみ

本校は、部活動としてJRC活動に取り組んでいます。特に奉仕の精神を大切に、社会のため、人のためにつくす責任を自覚できるような活動をしています。「縁の下の力持ち」をキャッチコピーにしています。しかし、一人一人の力は小さく、また、中学生であることで活動の限界を感じることもあります。そのような中、生徒たちが自分たちの力を合わせて何かできることはないかと日々考えた部活動を行っています。例えば、校内や学区内の清掃活動、エコキヤップの回収、募金活動などがあげられます。ごみ拾いや、募金も一人で行うことは限られていますが、みんなの力が合わされば、ごみもたくさん拾うことができ、募金も金額が大きくなります。一人一人の小さな積み重ねが大切だと感じています。世界各地で起こっている災害に私たちがどのようにすれば良いかなどは、よく話にのびります。東日本大震災を経験したことで、日本各地、世界各地からの応援に励まされていることを知り、恩返しをしようという気持ちが生徒の中にあります。このような日々の活動で印象に残ったことを「詩・一〇〇文字提案」に書かせました。

◆あ と が き

この十年間で、三九、八七六点の作品応募がありました。震災後の二〇一二年度からは、学校数、作品数ともに急激な増加を見ました。それだけ、児童生徒のおかれた環境や心の有り様が大きく変化する、いのちや奉仕、国際支援に関心が高まったことが窺えます。

二〇一二年度からは当事業も東日本大震災復興支援事業として位置づけられ、作品を応募すること、作成した作品集を読んでいただくことが復興につながるという捉えになってきています。今後も福島県の子どもたちのために、運営等の改善を図り、内容の充実した事業にしていきたいと思っています。

当作品集の作成に関わって、お忙しい中原稿をお寄せくださった方々、これまで審査に当たっていただきました福島県青少年赤十字賛助奉仕団の方々、学校において真摯に子どもたちの指導に当たっていたいただいた学校関係者の皆様、ご後援をいただきました福島県教育委員会様、福島県小学校長会様、福島県中学校長会様、福島県高等学校長協会様に衷心より感謝申し上げます。今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。

(E. T)

